地質学雑誌　第119巻　第6号（通巻1413号）付録　平成25年6月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.16 No.6 June 2013

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

日本地質学会第120年学術大会（仙台大会）

「東北，いま，たちあがる地質学」

会期　2013年9月14日～16日

会場　東北大学川内北キャンパスほか

講演申込・要旨投稿最終締切

7月2日（火）17時

各種申込受付中

事前参加登録最終締切

8月20日（火）18時

（巡検参加申込締切　8月9日（金）18時）※

※（注意）本年の巡検は，旅行社を通じての手配のため，
申込受付の延長は一切行えません。お早めにお申込下さい。

お申し込みは，大会 HP から

http://www.geosociety.jp/sendai/content0001.html

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

日本地質学会*News*

Vol.16 No.6 June 2013

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６F
編集委員長　内藤一樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

仙台大会ニュース ……2
講演申込・事前参加登録：受付中です/学術大会に係るプレス発表会へのご協力のお願い/巡検M班中止のお知らせ

ご案内 ……3
深海底岩石サンプルデータベース“GANSEKI”がリニューアルされました/第21回地質調査総合センターシンポジウム/室戸ジオパークサマースクール2013/第28回HKTワークショップと第６回チベット高原に関する国際シンポジウムの合同大会/第29回ゼオライト研究発表会/ IGCP608「白亜紀アジア－西太平洋生態系」の第１回国際研究集会のお知らせ

公募 ……4
新潟大学教育研究院自然科学系教員公募（准教授）/新潟大学教育研究院自然科学系教員公募（助教）/関西学院大学理工学部教育技術職員の募集/電力中央研究所地球工学研究所特別契約研究員募集/海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域ポストドクトラル研究員，研究技術専任スタッフ公募

各賞・助成 ……6
平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者募集（推薦）/第８回「科学の芽」賞募集

紹介 ……7
地球深部探査船「ちきゅう」プラモデル（石渡　明）/ DVD教材海底林「海の中に立ち木があった」土生居　弘・藤井昭二（矢島道子）/安全な土地　今村遼平（足立勝治）

列島各地から ……9
広島　日本の自然石公園「仙石庭園」（沖村雄二）

支部コーナー ……10
関東支部：緊急研修会『地表付近の地質学的調査における応用地質学的・土木地質学的留意点』のご案内

訃報 ……10

地学教育のページ ……11
小さなEarth Scientistのつどい～第11回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～参加校募集

Island Arc Vol.22　Issue 2日本語要旨/お知らせ ……12

院生コーナー ……14
火山学勉強会2012（無盡真弓）

学会記事 ……16
2012年度第９回執行理事会議事録/2012年度第10回執行理事会議事録/日本地質学会2012年度第４回理事会議事録

会員名簿作成アンケートの実施について ……21

会員名簿の訂正・変更・登録についてのお願い ……22

CALENDAR ……23

巻末　入会申込書

表紙紹介

第４回惑星地球フォトコンテスト入選作品：
『東南極セール・ロンダーネ山地の巨大岩峰』

写真　**菅沼悠介**（東京都）

【撮影場所】東南極ドロンイングモードランド，セール・ロンダーネ山地中部のバウターエン付近．
【撮影者より】第53次南極地域観測隊のセール・ロンダーネ山地調査隊（５名）に参加し，約100日間のフィールド調査を行った際の写真です．ゴンドワナ大陸の誕生時に変成作用を受けた片麻岩類の基盤に，花崗岩質マグマが貫入している様子が見て取れます．岩峰の高さは約400 mもあり，横を走るスノーモービルの大きさからも，その巨大さが実感できます．
【講評】作者は国立極地研究所の研究者で，昭和基地から西へ700 kmの位置にあるセール・ロンダーネ山地での調査中に撮影した作品です．普通の人が行けない場所だけに魅力的で，「行きたい」と思わせます．スノーモービルを手前に置くことによって岩峰の巨大さがわかります．雲があったのが残念．（白尾）

2013年度会費および それ以前の未納会費がある方へ

６月中旬に督促請求書（郵便振替用紙）を郵送しました．
早急にご送金くださいますようお願いいたします．
７月上旬頃までに入金確認が取れない場合には，７月号の雑誌から発送停止となります．定期的に雑誌をお受け取りになりたい方は，お早めにご送金ください．

事務局営業カレンダー　お休み

6月 June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

7月 July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

講演申込・事前参加登録：受付中です！

＜講演申込・要旨投稿＞
締切：７月２日（火）17時（郵送６月26日（水）必着）

＜事前参加登録＞
締切：８月20日（火）17時（郵送８月16日（金）必着）
※巡検のみ締切が異なります
締切：８月９日（金）17時（郵送８月７日（水）必着）
（注意）本年の巡検は，旅行社を通じての手配のため，申込受付の延長は一切行えません。お早めにお申込下さい．

仙台大会HPはこちら
http://www.geosociety.jp/sendai/content0001.html

第120年学術大会（仙台大会）巡検M班中止のお知らせ

巡検案内者の都合により，仙台大会巡検の下記コースは中止となりました．

申込受付開始後の変更のため，皆様にはご迷惑をおかけ致しますが，何卒ご了承下さい．すでにお申込を頂いた方は，事務局よりキャンセルのお手続きをさせて頂きます．

【中止】M班　2008年岩手・宮城内陸地震による斜面災害
（案内者　川辺孝幸・籾倉克幹）

（日本地質学会行事委員会）

学術大会に係るプレス発表会へのご協力のお願い

平素より日本地質学会の活動にご協力頂きましてありがとうございます．日本地質学会では，学術大会の際に，学術大会や地質情報展の開催案内，そして「特筆すべき研究成果」等を開催地および文科省の記者クラブに情報提供してまいりました．特に開催地での記者会見には，例年多くの報道機関の方が来場され，TV，新聞等で取り上げられています．

本年も仙台大会においてプレス発表会を開催する予定です．会員皆様の学術活動が広く報道されることは，地質学全体にとってプラスになります．**この機会に会員皆様の研究成果を「特筆すべき研究成果」として広報委員会へ是非ご推薦下さい．**皆様からの推薦をもとに，会見にマッチした資料を準備いたします．支部，部会，会員皆様からの自薦・他薦等，幅広い情報をお待ちしております．

なお，推薦された研究成果は行事委員会と広報委員会によってレビューされます．研究発表者にインタビューすることもあります．プレス発表に適当かどうかを両委員会が慎重に判断し，最終的にプレス発表会で紹介する研究を決定します．従いまして，推薦された研究成果がすべてプレス発表される訳ではありません．その点をご承知おき下さい．

◆「特筆すべき研究成果」の応募方法◆
締め切り：2013年７月19日（金）17時
応募方法：推薦者と発表者の氏名と連絡先（メールおよび電話番号），タイトル，セッション名と簡単な推薦理由を地質学会事務局（journal@geosociety.jp）にお送り下さい．資料作成のために行事委員会および広報委員会より連絡することがあります．
記者会見：９月初旬

過去のプレスリリース資料は学会ホームページより閲覧できますので，どうぞご参照ください．できるだけ公式のプレス発表会を活用して頂き，個別会見の場合も解禁日を合わせて，全体として効果的な報道になるようご協力をお願いいたします．

過去のプレスリリースは，学会HPからご覧頂けます．
http://www.geosociety.jp/engineer/category0002.html

日本地質学会広報委員会
委員長　内藤一樹

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

深海底岩石サンプルデータベース "GANSEKI" がリニューアルされました

海洋研究開発機構（JAMSTEC）では，**JAMSTEC船舶によって採取された岩石サンプルやその関連情報を研究・教育用途の利用に無償公開しています．**2006年から運用が始まったGANSEKIデータベースには，２万数千件のメタデータ，１万数千件の分析データおよび，８千数百点の岩石サンプルコレクションの保管情報が登録されています．このGANSEKIデータベースが大改修を終え，2013年５月に公開されました．

新しいGANSEKIでは検索・閲覧機能が強化され，分析データの数値や画像情報によるサンプルの選択，「マイリスト」機能による効率的なデータの整理・比較が可能になりました．「航海・潜航データ探索システム（DARWIN）」などGANSEKI以外の各種データサイトとの連携機能も強化され，研究に役立つコンテンツの充実を目指しています．

「深海底岩石サンプルデータベース "GANSEKI"」URL：http://www.godac.jamstec.go.jp/ganseki/j

JAMSTEC 岩石サンプルキュレーター
富山隆将 （tomi@jamstec.go.jp）

※GANSEKIや岩石サンプルキュレーションに関するご意見やご要望をお知らせ下さい．

第21回地質調査総合センターシンポジウム

「古地震・古津波から想定する南海トラフの巨大地震」

趣旨：2011年東北地方太平洋沖地震以降，古地震・古津波の情報の重要性が改めて認識されるようになった．一方でマグニチュード９の衝撃は地震・津波に関する従来の想定方法を変え，既往最大規模にとらわれない最大クラスの地震・津波が考慮されるようになっている．このような状況の中，南海トラフ沿いでは，過去の地震に多様性があることが解明されつつあるが，防災・減災対策を考える上では，ある程度的を絞った地震・津波像を出すことが期待されている．本シンポジウムでは，歴史・地形・地質などから得られている過去の地震・津波の情報を整理し，震源モデルや地震サイクルシミュレーションも考慮しつつ，南海トラフの巨大地震想定の現状と今後の課題を議論する．

日時：2013年７月10日（水）13：00－18：00（受付12：30より）
場所：秋葉原ダイビル・コンベンションホール
対象：一般および地震防災関係者
定員：300名程度（先着順）
参加費：無料
事前参加登録：http://www.gsj.jp/researches/gsjsymposium/sympo21/index.html
問い合わせ先：GSJシンポジウム事務局，電話029-861-3687，gsjsympo21-ml@aist.go.jp

プログラム

13:00　佃　栄吉（産総研 理事 地質分野研究統括）「シンポジウムの趣旨説明」
13:10　吉田康宏（文部科学省地震・防災研究課）「新しい南海トラフの地震活動の長期評価について」
13:40　藤原　治（産総研 活断層・地震研究センター）「地形・地質記録から見た南海トラフの巨大地震・津波（東海地域の例）」
14:05　宍倉正展（産総研 活断層・地震研究センター）「地形・地質記録から見た南海トラフの巨大地震・津波（南海地域の例）」
14:30　寒川　旭（産総研 活断層・地震研究センター）「地震考古学から見た南海トラフの巨大地震」
15:00-15:30（休憩・ポスターコアタイム12件）
15:30　矢田俊文（新潟大学 人文学部）「1707年宝永地震による浜名湖北部の沈降と大坂の被害数」
16:00　瀬野徹三（東京大学 地震研究所）「南海トラフ三連動型地震・Ｍ９はあり得るか？」
16:30　安藤亮輔（産総研 活断層・地震研究センター）「現代地震発生物理学に基づく海溝型古地震研究の新展開」
17:00　岡村行信（産総研 活断層・地震研究センター長）
まとめ・総合討論

ポスター発表（12件）

１．詳細DEMと第四系層序を用いた上町断層帯の平均変位速度分布
近藤久雄（産総研）・関口春子（京都大学）・加瀬祐子・竿本英貴（産総研）
２．糸魚川-静岡構造線活断層系・岡谷断層における最近４回の活動
近藤久雄・谷口　薫（産総研）
３．浅部から深部にわたる応力場評価の研究
木口努・今西和俊・桑原保人・佐藤隆司（産総研）
４．内陸地震発生予測シミュレータの開発
長郁夫・桑原保人（産総研）
５．南海掘削試料を用いた堆積岩の力学特性
高橋美紀・北島弘子（産総研）
６．応力の微小変動と地震活動に関する実験的研究
佐藤隆司・雷　興林（産総研）
７．短期的ゆっくりすべりの高精度なモニタリング
板場智史・松本則夫（産総研）・木村武志（防災科学技術研究所）
８．東海地域での短期的ゆっくりすべりの空間分布の特性
北川有一・武田直人・今西和俊・板場智史（産総研）
９．和歌山県串本町橋杭岩周辺の漂礫分布からみえる過去の巨大津波
行谷佑一・宍倉正展（産総研）・前杢英明（法政大学）・越後智雄（地域地盤環境研究所）
10．青森県太平洋岸における津波堆積物調査
谷川晃一朗・澤井祐紀・宍倉正展・藤原治・行谷佑一・松本　弾（産総研）
11．関東平野北西縁断層帯を対象とした反射法地震探査
堀川晴央・山口和雄・横倉隆信・伊藤忍・阿部信太郎（産総研）
12．水勢を減衰させるための樹木の最適配置について
竿本英貴（産総研）

室戸ジオパークサマースクール2013

来るならきいや南海地震，土佐はうちが守るきね！

今年は「防災」にグググっと絞り込んで実施いたします．最先端の地震学の研究者や東北地方太平洋沖地震の復興に関わってきた方々などと一緒に，実験や被災地を再現する体験を通じて広い視野で防災を考える１泊２日のプログラムです．夏休みの自由研究の題材に最適な実験や作業も行います！小学校５年生から高校３年生までが参加できます．（平成25年度子どもゆめ基金助成事業）

日程：平成25年８月８日（木）9:00～９日（金）16:00
場所：室戸市内の海岸，室戸市保健福祉センター，国立室戸青少年自然の家

主催：室戸ジオパークサマースクール実行委員会
後援：日本地質学会ほか
対象：小学校５年生～高校３年生まで
定員：35名
募集期間：平成25年６月15日～７月16日
参加費（予定）：1,500円（宿泊費，食費，保険料）

申し込み方法：
平成25年６月中旬～７月中旬頃の期間に学校に配布する申し込み用紙に記入してFAXしてください．あるいは申し込み用紙に“手

書き”で記入したものをスキャンしてメールに添付して送付してください．申し込み用紙はホームページに6月中旬頃に掲載いたします．

申し込み先：
室戸ジオパークサマースクール2013実行委員会事務局
〒781-7185　高知県室戸市浮津25-1　室戸市役所内
電話：0887-22-5161　Fax：0887-22-1120
Email：info@muroto-geo.jp
ホームページ：http://ss.muroto-geo.jp/

Joint Conference of 28thHimalaya-Karakoram-Tibet (HKT) workshop and 6th International Symposium on Tibetan Plateau

（第28回HKTワークショップと第6回チベット高原に関する国際シンポジウムの合同大会）
8月22日（木）～24日（土）
場所：Tübingen University, Germany

ポストコンファレンス巡検
1．Geological Highlights of the Western Alps
　8月25日～8月31日
2．Environment
　8月25日～8月30日

問い合わせ：
酒井治孝（hsakai@kueps.kyoto-u.ac.jp）
http://www.tip.uni-tubingen.de/index.php/en/hkt-istp-2013-tuebingen

第29回ゼオライト研究発表会

主催：ゼオライト学会
協賛：日本地質学会ほか
日時：2013年11月27日（水）～28日（木）
会場：東北大学・片平さくらホール
テーマ：ゼオライト，メソ多孔体，およびその類縁化合物に関連した研究の基礎から応用まで
講演の種類：
1）特別講演（討論を含めて60分，2件予定）
2）総合研究発表（討論を含めて30分程度）
3）一般研究発表（討論を含めて20分程度）
参加登録費：（予稿集代を含む．当日申し受けます．）
　会員　5,000円（主催ならびに共催等の学協会の個人会員，およびゼオライト学会団体会員の法人に所属の方を含む）
　学生　2,000円
　非会員　10,000円
懇親会：11月27日（水）講演終了後，同館内にて
　会費4,000円，学生2,000円（予定）
講演申込：7月1日（月）～8月8日（木）
予稿原稿締切：10月25日（金）
予稿集送付先：zeolite@res.tagen.tohoku.ac.jp
問い合わせ先：
村松淳司（東北大学多元物質科学研究所）
TEL：022-217-5163，FAX：022-217-5165，
e-mail：mura@tagen.tohoku.ac.jp

最新のプログラムはhttp://www.jaz-online.org/

IGCP608「白亜紀アジアー西太平洋生態系」の第1回国際研究集会のお知らせ

2013年3月より活動を開始した，IGCP608 Asia-Pacific Cretaceous Ecosystems（地質科学国際研究計画608「白亜紀アジア－西太平洋生態系」）の，第1回国際研究集会の開催骨子が発表されましたので，皆様にご案内します．

IGCP608 第1回　国際シンポジウム
・開催日時：2013年12月20－22日
・開催場所：インド・ラクナウ（Lucknow）バーバル・サーニー古植物研究所（Birbal Sahni Institute of Palaeobotany: http://www.bsip.res.in/）
・開催中心者：Sunil Bajpai 所長（教授）IGCP608の共同リーダーの一人
・巡検：12月23－27日　インド半島中西部の白亜系

バーバル・サーニー古植物研究所は，Wikipediaでも詳細な解説のあるBirbal Sahni（1891-1949）の業績をたたえての研究施設です．インド科学技術局のもとにある独立研究所で，言うまでもなく，古植物学研究の牙城です．
First CircularはIGCP608やバーバル・サーニー古植物研究所のWebsiteからダウンロードできます．本プロジェクトのIGCP本部からの採択が3月中旬であったため，集会の日程案内が中心ですが，詳細な集会の情報は次のSecond Circularで案内いたします．なおIGCP608のWebsiteではインドの地質図2種類をダウンロードできますので，是非ご覧ください．

IGCP608のホームページ
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

1993年に始まった東アジア白亜系IGCPsとしては，インドでの開催は1997年のIGCP350第5回集会以来となります．白亜系を対象とする研究推進・発表の場として，多くの方の積極的な参加をお願いします．

連絡先：IGCP608リーダー
安藤寿男（茨城大学理学部）
E-Mail：ando@mx.ibaraki.ac.jp

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

新潟大学教育研究院自然科学系教員公募（准教授）

所属
　新潟大学教育研究院自然科学系環境科学系列
担当学部・研究科
　理学部　地質科学科
　大学院自然科学研究科　環境科学専攻地球科学コース
担当予定科目
　学部：地質科学の専門科目，野外調査を基本とする地質科学の実習科目，地学に関する基礎科目
　大学院：岩圏物質の変遷に関わる地質科学分野の専門科目　など
職種・人員　　准教授　　1名
採用予定日　　平成25年10月1日以降のなるべく早い時期
職務内容・条件
(1) 理学部地質科学科及び大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コースの教育目標と教育内容，伝統を理解し，野外調査を基本とする地質科学の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと．(2) 野外実習を含む地学の基礎科目の教育を行うこと．(3) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること．(4) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること．
応募資格
(1) 博士の学位を有すること．(2) 上記職務内容に関して優れた教育研究業績を有し，地質科学分野の教員と協調して教育研究を担える能力と熱意があること．
応募締切　　平成25年7月12日（金）必着

応募書類野内用や公募の詳細については下記を参照して下さい．
http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~scitech/gakugai/koubo.html

提出書類の送付及び問合せ先
(1) 送付先
　〒950-2181　新潟市西区五十嵐2の町8050番地
　新潟大学自然科学系総務課学系庶務係
(2) 問合せ先
　〒950-2181　新潟市西区五十嵐2の町8050

番地
新潟大学理学部地質科学科
教授　豊島　剛志
電話：025-262-6199（直通）
E-mail：ttoyo@geo.sc.niigata-u.ac.jp

新潟大学教育研究院自然科学系教員公募（助教）

所属
新潟大学教育研究院自然科学系　環境科学系列
担当学部・研究科
大学院自然科学研究科環境科学専攻，理学部　地質科学科
担当予定科目
大学院：地球科学演習など，
学部：地質科学科の野外実習・地質調査法など
職種・人員　助教　1名
採用予定日　平成25年10月1日以降のなるべく早い時期
任期　採用時から5年間．再任なし．
職務内容・条件
(1) 大学院自然科学研究科地球科学コース及び理学部地質科学科の教育目標と教育内容，伝統を理解し，野外地質調査を研究手法とする地質科学分野の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと．(2) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること．(3) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること．
応募資格
(1) 博士の学位を有すること．(2) 野外地質調査に基づく地質図作成の実績があり，野外実習の指導ができること．

応募締切　平成25年7月12日（金）必着

応募書類野内用や公募の詳細については下記を参照して下さい．
http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~scitech/gakugai/koubo.html

提出書類の送付及び問合せ先
(1) 送付先
〒950-2181　新潟市西区五十嵐2の町8050番地
新潟大学自然科学系総務課学系庶務係
(2) 問合せ先
〒950-2181　新潟市西区五十嵐2の町8050番地
新潟大学理学部地質科学科
学科長　松岡　篤
電話：025-262-6376（直通）
E-mail：matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp

関西学院大学理工学部教育技術職員の募集

1．職種：教育技術職員（高度な専門技術を有する専任の教育技術職員）
2．募集人数：1名
3．応募資格：修士以上の学位を有し，化学・地学系分野の基礎技術に関する経験と教育に熱意がある者で以下のいずれかに該当するもの．
i）化学系の大学院を修了し，学部もしくは大学院で地学系の科目と地学実験を履修したもの
ii）地球科学系の大学院を修了し，学部もしくは大学院で化学系の科目と化学実験を履修したもの
4．業務内容
(1) 環境・応用化学科の学生実験（地学実験並びに基礎化学実験，環境・応用化学実験）に係る教育支援（2）環境・応用化学科共通機器の管理・操作，廃棄物処理や安全管理の業務（3）理工学部長の指示に基づく教育・学内業務等
5．必要とされる職務能力
化学・地学系分野で使用する試薬・技術に関する知識，経験および指導能力（危険物取扱者，エックス線作業主任者等の資格があればなお可）
6．待遇
①給与：学歴・職務経験などを査定して基本給が決定されます．（例）基本給254,900円（修士修了・職務経験無）賞与6.2ケ月（2012年度実績）上記金額はあくまで一例であり，保証される金額ではありません．②諸手当：扶養手当，住宅手当，研修手当，交通費等を規程により支給③勤務時間：原則として 平日：8：50～16：50，10：30～18：30土曜：8：50～12：20 隔週土曜休暇制度有，超過勤務有④社会保険：「私学事業団（私学共済制度）」に加入
7．採用予定日：2015年4月1日
8．勤務地：兵庫県三田市学園2－1
関西学院神戸三田キャンパス

応募締切：2013年7月31日（水）
必着で下記の応募書類を郵送先に提出すること．書類選考後，面接日を該当者あてにこちらから通知する．

応募書類：履歴書（顔写真貼付，捺印必要，学歴および職歴記入のこと）：1部，業務実績の概要：1部，担当業務に対する自己アピール（A4紙 1500字以内）：1部，成績証明書：学部，大学院，各1部

郵送先：〒669-1337　兵庫県三田市学園2丁目1番地
関西学院大学理工学部長 加藤 知
問い合わせ先：Eメールアドレス：riko-saiyo@kwansei.ac.jp

電力中央研究所地球工学研究所特別契約研究員募集

噴火履歴データの高精度化に基づく降灰ハザード評価の高度化
研究内容　当研究所では，大規模噴火により発生する降灰等の災害ハザードを評価するために，新たな評価技術を開発しています．火山噴火履歴データの高精度化，噴火ポテンシャル評価のためのマグマ粘性の評価，噴煙・降灰の数値解析等の手法について，評価技術を開発し，電力施設に対する自然災害ハザード評価に適用を図っています．
今般募集する研究員が担当する研究内容を以下に示します．
(1) 噴火・降灰履歴が十分に解明されていない火山を調査し，噴火実績を解明する．特に，比較的古い時代に噴出し地域的な記載に留まるテフラを対象に，広域的な対比を行う．
(2) 調査結果に基づき，当該火山や周辺地域における降灰等の火山噴火災害の規模・頻度の関係について，ハザード曲線を作成する．
(3) 調査により解明された噴火・降灰履歴に関する時系列情報を，当研究所で開発中のマグマ粘性評価技術や噴煙の数値解析技術に適用し，当該火山の噴火ポテンシャル評価や周辺地域の降灰ハザード評価を行う．
これらの研究成果は，当研究所の研究報告書（主報告者），学術誌，学会等を活用し，積極的に公表いただきます．火山灰層序学や火山地質学を専攻し，テフラや各種の火山噴出物を野外・鏡下で観察・記載することができ，加えて，地球化学に関する機器分析技術を有しており，研究業務に意欲を持って取り組んで頂ける方を歓迎致します．

募集人員　1名
応募資格　原則として採用時に博士号取得者
勤務場所　電力中央研究所　地球工学研究所（千葉県我孫子市）
提出書類　(1) 履歴書 (2) 博士論文およびこれまでの研究概要（2000字程度）(3) 研究業績リスト（研究論文，著書，国内外における学会活動，特許など）(4) 学位取得証明書 (5) 健康診断書または健康診断証明書
応募締切　平成25年8月23日（金）
問い合わせ先　ご不明点などについては，以下のアドレス宛お問い合わせください．
地球工学研究所　採用窓口：saiyo_na@criepi.denken.or.jp
募集の詳細は下記のページを参照して下さい．
http://recruit.denken.jp/ninkituki/subject/#post-1381

海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏 領域ポストドクトラル研究員，研究技術専任スタッフ公募

独立行政法人海洋研究開発機構　海洋・極限環境生物圏領域ではポストドクトラル研究員と研究技術専任スタッフの公募を行っております．詳細につきましては以下URLをご確認ください．

【募集職種】ポストドクトラル研究員
【募集部署】海洋・極限環境生物圏領域
深海・地殻内生物圏研究プログラム深海・地殻内生命圏システム研究チーム
http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/biogeos20130712.html
【着任日】平成25年10月１日もしくはそれ以降（応相談）
【締切】平成25年７月12日（金）まで（必着）

【募集職種】研究技術専任スタッフ
【募集部署】海洋・極限環境生物圏領域
海洋生物多様性研究プログラム化学合成生態系進化研究チーム
http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/biogeos20130705.html
【着任日】平成25年９月１日（応相談）
【締切】平成25年７月５日（金）まで（必着）

【問い合わせ先】
独立行政法人海洋研究開発機構
研究支援部支援第１課人事担当
rsd-jinji@jamstec.go.jp

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は，執行理事会までお申し込み下さい．

平成26年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者募集（推薦）

文部科学省では，科学技術に関する研究開発，理解増進等において顕著な成果を収めた者について，その功績を讃えることにより，科学技術に携わる者の意欲の向上を図り，もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めております．このたび，平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者の推薦機関からの募集を行います．

表彰内容

（1）科学技術賞

１）開発部門
　我が国の社会経済，国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって，現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

２）研究部門
　我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った個人又はグループ

３）科学技術振興部門
　大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出，地域における産学官連携，研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において，科学技術の振興に寄与する活動を行い，顕著な功績があったと認められる個人又はグループ

４）技術部門
　中小企業，地場産業等において，地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

５）理解増進部門
　青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し，又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ

（2）若手科学者賞

　萌芽的な研究，独創的視点に立った研究等，高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人

受賞候補者の推薦について
　本表彰は，文部科学省研究振興局長が推薦依頼を発出した機関（以下，推薦機関）からの推薦のみ受け付けております．従って，個人に対する募集は行っておりませんので御注意下さい．
　科学技術賞及び若手科学者賞につきましては，女性の研究者・技術者の積極的な推薦をお願いいたします．また，科学技術賞技術部門にたいしても多くの推薦をお待ちしております．

推薦締切　平成25年７月17日（水）（学会締切　７月５日）

お問合せ先
　研究振興局振興企画課奨励室
　水野・矢崎・中村
　電話：03-5253-4111（内線4071），03-6734-4071（直通）
　メールアドレス：sinsyore@mext.go.jp
募集の詳細は，http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1334831.htm

第８回「科学の芽」賞募集

後援：日本地質学会ほか

趣旨：筑波大学の前身の東京教育大学の学長を務めるなど，本学にゆかりのあるノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士の功績を称え，それを後続の若い世代に伝えていくとともに，小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールを行い「科学の芽」賞を授与します．なお，「科学の芽」賞の受賞者には，表彰式において筑波大学長から表彰状及び記念品が贈られます．

応募資格：全国の小学校３年生～中学校・高等学校（高等専門学校３年次までを含む．），中等教育学校，特別支援学校の個人若しくは団体「小学生部門」，「中学生部門」，「高校生部門」に分けて公募します．
　朝永先生の言葉のように自然現象の不思議を発見し，観察・実験して考えたことをまとめましょう．素直な疑問・発見があるものを募集します．
応募作品は，レポート用紙Ａ４判10枚以内にまとめてください．原稿作成は，手書き，ワード，どちらでもかまいません．

応募期間：2013年８月20日（火）～９月30日（月）〔消印有効〕
応募のきまり：応募の際は，第８回「科学の芽」賞の応募用紙を出力し，必要事項を記入のうえ，応募作品と一緒に提出してください．

送付先
　〒112-0012　東京都文京区大塚３-29-１
　筑波大学「科学の芽」賞実行委員会宛
応募用紙，詳細は以下をご参照ください．
http://www.tsukuba.ac.jp/community/kagakunome/

紹　介

地球深部探査船
「ちきゅう」プラモデル

（株式会社バンダイ　外箱387×309×81 mm，完成品 300×186×55 mm（台座を含めると高さ250 mm），参考価格5,985円）

「ちきゅう」のプラモデルが発売された．日本が建造・所有し，統合国際深海掘削計画（IODP）の枠組みの中で運用している世界最大の科学目的の海底掘削船（ただし運用時間の半分程度は経済活動に従事）の精巧な模型である．2007年の運用開始以来，主に南海トラフの付加体・震源断層掘削を行ってきたが，2012年のJ-FAST（IODP Exp. 343）航海においては，従来の米国の掘削船ジョイデス・レゾリューション（水深5000 m程度での掘削が限界）では不可能だった東北沖の海溝軸近くの水深7000 mの海底を800 m以上掘削することに成功し，2011年東北地方太平洋沖地震の震源断層と思われる破砕帯を貫くコア試料回収に成功したことは記憶に新しい．その他，沖縄トラフの熱水噴出帯や八戸沖の海底深部の炭層など地下深部生命圏の解明を主目的とする掘削も行い，今年に入ってからも伊勢湾沖で海底下のメタンハイドレート濃集層から天然ガス回収に成功したことが大きく報道された．この掘削船の特徴は通常の掘削の他にライザー（riser）掘削機能を持つことで，船から海底まで通常のドリルパイプよりも太いパイプを降ろしてその中に「泥水」（潤滑剤などを含む特殊な液体）を循環させ，岩石の切り屑を絶えず洗い流し，掘削孔内部の圧力を保持しながら効率的に掘削を進めることができる．この機能は，人類の夢であるマントルへの掘削には必須である．また，泥水とともに船まで上がってきた切り屑を回収することによって，時間のかかるコア試料の回収を行わなくても掘削している地層や岩石の砕片試料を得ることができるなど，他のメリットもある．ただし掘る穴の直径が大きくなり，泥水を循環させる必要があるので，通常のライザーレス掘削より大きな動力と長い時間を要し費用も嵩む．

さて，実際に作ってみると，このプラモデル作りはかなり難物で，完成させるには相当の忍耐力と注意力，手の器用さが必要である．私はちょうど連休の前半に風邪を引いてしまい，家に蟄居していなくてはならなかったので，その間にこれを作ったが，完成には丸2日を要した．外箱には「対象年齢15才以上」と明記されているが，大人でも「細かな手作業は嫌いだ」という人には向かない．作業を始める前にニッパー，ピンセット，カッター，はさみ，綿棒，つま楊枝，そしてセメダインなどの接着剤を別途用意する必要がある．組み立てる部品数は貼り付けシールを含めると300個を超える．「ちきゅう」の特徴や建造の経緯，主な研究成果などまで含めた，モリナガ・ヨウ氏のイラスト入りの28ページの説明書が附属している．完成品は全長30 cm，実物の1/700のモデルになる（写真）．

作業中に気がついたこととしては，部品を枠からニッパーで切り取った後にカッターなどでなるべく丁寧に「バリ」を取ることが美しく仕上げるコツであること，シールの貼り付けが特に難しく技術と経験を要すること，とにかく余計なことを考えず説明書をよく読みながら愚直に順番と細かな指示を守って組み立てるのが最小の時間とストレスで完成させる道であること，などである．この説明書は非常によくできており，図解が豊富かつ正確で，説明文も親切である．このモデルでは，ライザーパイプ（白色）と通常のドリルパイプ（黒色）の太さ・長さの違いがよくわかる．本体右側面の前部と中部を完成後も簡単に取り外すことができ，ムーンプール（ドリルパイプを降ろす船底の孔）周辺や研究ラボの内部が見られるようになっている．意外だったのは，この船には船尾の大きなスクリューがなく，アジマス・スラスタ（azimuth thruster）と呼ばれる本体底面の6つの方向可変のスクリューだけで推進力を得ていることである．水面下の部分は見学に行っても見えない．なお，このモデルは，完成後でも船底の赤い部分を外して「洋上ディスプレイ」にすることが可能である．また，ドリルパイプ（黒色）やヘリコプターは，完成後の教材としての持ち運びを考えると，本体に接着してしまった方がよい．操舵室の上の高いアンテナは折れやすいので，持ち運びの際は特に注意が必要である．

会員各位がこの船のプラモデルを身近に置き，最近得られたこの船による上述の研究成果や将来のマントル掘削などの計画を話してあげることによって，日本が参画している国際的，先端的な巨大科学の1つである地球深部掘削に学生・生徒・子供の興味を向けることができ，地球科学の普及と次世代の地球科学者・技術者育成につなげることができると思う．もちろん，少年時代を思い出して，久しぶりにプラモデル作りに熱中してみるだけでも悪くない．このプラモデルはインターネットからも購入でき，価格は販売者によって異なる．私は4月に東京で開催されたChikyu+10ワークショップの会場において割引価格で購入したが，そこでは英語の説明書も添付され，多数の外国人参加者も購入していた．なお，「しんかい6500」のプラモデルも同じ会社で製造している．

（石渡　明）

DVD教材
海底林
「海の中に立ち木があった」

企画・制作
土生居　弘・藤井昭二

〔平成25年制作〕

1980年に富山県入善町吉原沖の海中で海底林が発見された．多くの調査・研究がなされ，報告の書籍（藤井ほか編，1988）も発行されたことをご存じであろうか．評者は寡聞にして存ぜず，魚津の埋没林と混同していた．このたび，多くの人の努力により，当時の調査・研究で残された大量のビデオ記録を掘り起こして，カラーで20分のDVD教材が完成した．

劣化したビデオを掘り起こして現代的作品に編集するには大変な労力がいる．調査をした富山大学名誉教授藤井昭二さんと藤井さんの教え子で前県視聴覚教育協議会長の土生居（はぶい）弘さんが完成させた．1980年5月の海底林発

見時から３カ年の調査を撮影した約500分間のビデオから映像を厳選したという．大変な労力と時間をかけて完成したDVDはこの海底林の調査研究に専念した人々の情熱・愛情がにじみ出ている．海底林の大きさ，樹木の種類，分布，年代，調査の様子等がDVDの内容だが，DVD全体を通じて私たちに伝わってくるのは人の心の暖かさである．

地元ダイバーが初めてとらえた映像，薄暗い水中の様子がそのまま収録してある．30年以上前だから，ダイバーの装備は現在からは考えられないほど単純なものである．調査も巻尺で巻いて計測したり，定規をあてたり，素朴である．世紀の発見であったから，調査をしている人はとても真剣である．

当時の映像の上に，現代的解釈がなされている．海底林は８千～１万年前，氷河融解による海面上昇と黒部川扇状地の土砂堆積によって立ち木のまま保存されたものであり，動画付きで解説されている．富山県は3000ｍをこえる黒部の山が，1000 ｍを超える深い海底谷をもつ富山湾に潜り込むような急峻な地形をもつ．この特有な地形があってこそ，海底林が形成されたといえよう．まずは富山のひとびとが地元の自然を理解するときに，参考にされたいDVD教材である．魚津の埋没林と違って，入善沖の埋没林はその名前を冠した記念館を持たない．富山の貴重な自然遺産が忘れ去られてしまうことのないように，このDVD教材が活用されることを願う．入善沖の埋没林は人為的な温暖化で海面上昇が進む現代社会に警鐘を鳴らしているともいえる．富山という地域を超えて，誰もが知っておきたい事実でもある．

連絡・購入等は〒939-1610　富山県南砺市福光195-１　tel 0763（52）3106　土生居弘さんまでお願いしたい．

文献　藤井昭二・奈須紀幸編『海底林　－黒部川扇状地入善沖海底林の発見を中心にして』東京大学出版会，1988年

（**矢島道子**）

安全な土地

今村遼平　著

（東京書籍，2013年６月４日発行，Ａ５版，200頁，ISBN978-4-80762-8，定価1,700円（税別））

災害には，常に明暗がつきものである．本書はそんな被災の明暗を分ける境がどこにあるかを示し，自分が住む土地を選ぶ際のポイントや，現在住んでいるところの安全性の診断に少しでも役立てたらとの思いで一般市民向けに執筆されている．

通読してまず感じることは，巻頭のカラーで示された「日本の軟弱地盤分布図」をはじめ図が86枚，表が21枚盛り込まれ，簡潔に分かりやすく自然災害の問題点を説明していることである．本文中の図表は赤黒の２色で表示され，視覚的に分かりやすく工夫されている．また，東日本大震災や2011年９月台風12号の災害事例，南海トラフ巨大地震被害想定などの最新情報が引用されているのが特徴である．

本書は，身近な自然災害に対して安全な土地を理解するため，４つの章にまとめられている．

第１章「地震に安全な土地」には，113ページを割き，重点的に取り扱っている．「地震と地盤」，「危険な地盤の見分け方」，「津波」，「活断層と地盤」，「液状化と土地」，「南海トラフ沿いの巨大地震」，「地盤の変位」について安全な土地を解説している．地震災害で被害を受けた場所を地形図と空中写真で説明されているので，視覚的に分かりやすい．

第２章「土砂災害に安全な土地」には，「崩壊（山崩れ・がけ崩れ）」，「土石流」，「地滑り」について安全な土地を解説している．日本の主な土砂災害が地域ごとに一覧表に整理され，最近時の災害が空中写真や地形図上に表示されているので，土砂災害の形態的な違いが分かりやすい．

第３章「洪水災害に安全な土地」には，戦後の主な風水害が一覧表にまとめられ，どのような土地が洪水被害に遭いやすいかが説明されている．この章には，「造成地の問題点」として造成の際に谷を埋めた土地や斜面に盛り土した土地がなぜ問題なのかが解説されている．

第４章「安全な土地」には，自治体作成のハザードマップを見る際の土地の安全性の見方が整理され，最大限利用すべきとしている．土地選びのポイントとして，土地を選ぶときの考慮の順番と地形別に見た災害に対する危険度がまとめられている．

本書を読むことにより，地形と自然災害の関係を学ぶことにもなると感じている．これが地図や空中写真を身近に扱うことのきっかけになればと願っている．

東日本大震災以降，国は2012年８月「南海トラフ巨大地震の被害想定」と2013年５月「南海トラフ巨大地震対策」を公表した．私の九州の実家は，海に面した河口付近に位置する．自治体はいち早く津波の避難計画をつくり，電柱に地盤高○ｍの表示をし，津波避難場所と避難ルートの標識が設置された．東日本大震災の記憶が新しいだけに，速やかな対応をしている．実家の土地は，津波が及ばない高台に位置しているが背後のがけ崩れが心配である．このように，自分の住んでいる「土地の安全性」を知り，自然災害として何が起きる可能性があるのかを具体的にイメージできることが“自分の身は自分で守る”ソフト対策の最も大切なポイントである．本書は自分の知りたい土地について，なにが問題なのかの土地診断に役立てることができる．

筆者の建設コンサルタント業50年の豊富な経験と地形・地質情報を活かして執筆された冊子であり，各個人がソフト対策を考える上で必要な防災情報を教えてくれる．会員の皆様には地質災害の防災普及書としてお薦めする．特に，建設コンサルタントを職種としている方々には，防災に係る地域住民向けの説明などに有益な内容が多く，参考になるので是非一読をおすすめしたい．　（**足立勝治**）

列島各地から

広島　日本の自然石公園「仙石庭園」

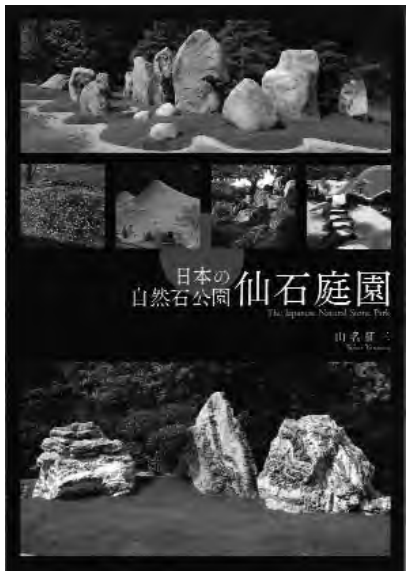
沖村雄二（名誉会員）

東広島市に想像を絶する岩石庭園が造られました．医療法人（社団）ヤマナ会理事長医師　山名征三氏の石に寄せる思いを一堂に集めたと言えるこの岩石庭園は，後楽園球場の広さに比べられ（16.000平方メートル＋），日本国中の銘石・巨岩（ほとんどの岩石が数トン以上）が，その粋を競い合っている場と表現できます．

このほど解説書（写真）が出版されて，庭園の一般公開が始まりました．いくつかのテーマ別組石庭園からなっていますが，それぞれ日本庭園のたたずまいに合わせて，地質学的な意味ももたせてあります．たとえば，写真の上部のテーマ庭園は，中国の黄山の印象を表現された花崗岩の組石で中央の花崗岩は約24トンあります．写真下部の組石は，北海道日高赤石と名付けられています．鳥海山火山組石，三波川結晶片岩を主体にした青百景や蓬莱神仙島，中国地方の銘石である砂谷石と羅漢石群（ジュラ紀付加体の緑色岩），そして割れ目に湾曲面が目立つ高田流紋岩組石，など，日本列島の地質構成を学ぶこともできます．

配置されている巨岩の１/３ぐらいを占めるのは三波川結晶片岩ですが，ステレオ投影を立体的に学ぶことができるような，あらゆる方向の断面が観察でき，組石庭園は，医師と庭師の視点を超越しているように思えます．組石ではなく，ガスが抜けた跡を埋めた方解石をともなう枕状溶岩，日本庭園になくてはならない“紫雲石”をはじめ，伊予の白石（珪質片岩），紅簾片岩，流動した痕跡が観察できる花崗岩など，散策道の両側に巨岩が並んでいます．

ただ，残念ながら，一部の岩石には産地に関する詳しい情報がないものがあり，完成した解説書は限定出版・非売品（地質学会に一部寄贈）です．しかし，自由に入庭でき，無料で公開されています．事前に連絡いただければ，解説書をお貸しして，庭内を私が案内いたします．ご来庭をお待ちしております．



「仙石庭園」
住所：東広島市高屋町高屋堀1500
入園無料
休園日は設定されていません．どなたでもご自由にご来園頂けます．

学会オリジナルフィールドノート　好評発売中！

卒業記念やイベントでのグッズに！

ご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートは，名入れサービスも承ります（有料）。
ビニールコーティングの表紙は，水や摩擦・衝撃にも強く野外調査に最適です。ぜひご活用ください。

サイズ：12×19cm.
中：レインガード紙使用．2mm 方眼.
カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し.
色：ラセットブラウン（小豆色）

定価 600 円（会員頒価 500 円）

ご注文・お問い合わせは，学会事務局まで <main@geosociety.jp>

☆関東支部

案内

緊急研修会
『地表付近の地質学的調査における応用地質学的・土木地質学的留意点』のご案内

立川断層榎トレンチ調査は，文部科学省が実施している「立川断層帯の重点的な調査観測」（受託先：東京大学地震研究所）の一環として実施されたものです．その掘削現場を東京大学地震研究所が２月８～９日に一般公開を行うことになったのですが，この説明会には相当数の市民の方々が参加されることが予想されました．また，日本地質学会関東支部所属の多くの会員も立川断層に強い興味を持っていました．そこで，関東支部幹事会は支部独自の見学会を１月26日に行って詳細に観察した上で，その一般公開が有意義なものとなるよう後援することにした次第です．

一般公開の後に，東大地震研究所の研究グループは，同グループ自身が行った追加調査によって「主断層帯とした部分に列状に配列する特徴的な白色粘土塊が人工物であることが判明」したとして，一般公開時の説明会内容を訂正した報告を，３月29日付でホームページに公開しました．

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/tachikawa/

この追加調査に至るうえでは，１月26日の支部観察会に参加した地質技術者（支部所属会員）から「トレンチ壁で観察された白色粘土塊は人工物ではないか」という疑義が出されたことを受け，支部幹事会が所属会員である地質研究者に鉱物分析等を委託したことが一つの重要な契機となっています．しかし，このような疑義が出されるまで，他の支部観察会参加者から誤認を明確に指摘する声はあがりませんでした．このことから，白色粘土塊についての誤認問題は地表近傍・地下浅所の人工改変に関する知見と経験が，地質学界全般においてなお不足していることにも起因しているのではないか，と反省せざるを得ません．さらに，もう一つ重要なことは，従来，立川断層による変動地形と想定されていたものが，今回のトレンチ調査によって「むしろ浸食崖である可能性が高いと判断」（東大地震研究所）されたことです．

これらの事態を受け，関東支部としても次の2つのことがらについて取り組む必要性を感じています．

第１には，地表近傍・地下浅所の人工改変に関する土木地質学上の基礎的理解・知識，さらには地すべり等による自然改変に関する応用地質学上の基礎的理論・知識を，豊富な現場の実例を踏まえつつ学ぶことです．

第２には，変動地形の認定方法やその根拠となる変動地形論をいっそう深化させることです．

第２のテーマは今後多くの研究者によって取り組まれることが期待されていますので，第１の点に関する緊急研修会を日本地質学会応用地質部会の後援をいただいて以下のように開催します．奮ってご参加ください．

主催：日本地質学会関東支部
後援：日本地質学会応用地質部会

講師と講義題目：
山崎孝成先生（国土防災技術株式会社技術本部長：静岡大学農学部非常勤講師，日本地すべり学会前理事）「すべり面の実態と斜面の安定：すべり面は断層面に似ているか？」
北詰昌樹先生（東京工業大学理工学研究科土木工学専攻教授：地盤工学会基準部会前部長）「我が国の地盤改良技術」
見掛信一郎先生（日本原子力研究開発機構東濃地科学センター：土木学会）「グラウチングによって亀裂性岩盤内に形成される組織と構造」
田中耕一先生（鹿島建設㈱　土木設計本部　地盤基礎設計部：地盤工学会理事）「土木建築工事に伴う人工的な地盤改変（地盤改良工事）の事例と見分け方」

日程：2013年７月27日（土）午前10時～午後５時
会場：日本大学文理学部３号館５階3507号室
CPD単位取得可能（１時間について１単位，予定：合計６～７単位）

受講を希望する方は，資料準備の都合もありますので７月19日（金）までに，関東支部<kanto@geosociety.jp>宛にご連絡ください．なお資料代は1,000～1,500円程度です．プログラムを含めて詳細は追って関東支部HP<http://kanto.geosociety.jp/>に掲載いたします．

問合せ先：関東支部幹事長　笠間友博
神奈川県立生命の星・地球博物館
神奈川県小田原市入生田４９９
Eメール：kasama@nh.kanagawa-museum.jp
電話　0465－21－1515

訃　報

次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

正会員　三谷　豊（2012年12月５日）
西木敏夫（2013年１月30日）
竹内清和（５月６日）
鈴木尉元（５月13日）
沢野　弘（５月９日）
福田　理（６月３日）

地学教育のページ

小さなEarth Scientistのつどい
～第11回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～
参加校募集

日本地質学会第120年学術大会の関連普及行事として，今年も上記発表会への参加校を募集します．詳細は本誌予告記事をご覧ください．地学，理科クラブの研究活動の発表，そのほか，この１年間に授業の中で行った活動の報告，児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動，研究内容であれば構いませんので，ぜひ応募してください．FAXで参加申込をする場合は，以下の申込書をお使いください．メールの場合，形式は問いませんので同様の内容を記して＜main@geosociety.jp＞までお送りください．申し込みの際の参加生徒数，発表タイトル，発表概要は予定でも結構です．参加していただいた生徒さんには参加証とともに，優秀な発表には「優秀賞」が贈られます．

日本地質学会地学教育委員会（担当：三次）

申込締切　2013年７月17日（水）

日本地質学会地学教育委員会　行き　（Fax　03-5823-1156）

小さなEarth Scientistのつどい　～第11回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～
参　加　申　込　書

学校名※ （クラブ名）	
学校長名	
担当教員名※	
研究者名（連記）	（内，発表会参加生徒数　　名）
タイトル（仮題でも可） ※	
発表概要 （可能であれば簡単に）	
担当者連絡先※	学校所在地　〒　　－ 電話　　，Fax メールアドレス
机の使用※	する　・　しない　（どちらかに○をつける）
備考・連絡事項	

※については必ず記入してください．

Island Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 22 Issue 2が2013年６月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1440-1738）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

Vol. 22 Issue 2（June）

2013 Island Arc Award

Subduction of mantle wedge peridotites: Evidence from the Higashi-akaishi ultramafic body in the Sanbagawa metamorphic belt. <Island Arc, 19, 192-207 (2010)>

Hattori, Keiko; Wallis, Simon; Enami, Masaki; Mizukami, Tomoyuki

沈み込むマントル・ウェッジ由来のペリドタイト：三波川変成帯に産する東赤石超苦鉄質岩体の例

服部恵子・Simon Wallis・榎並正樹・水上知行

（＊受賞理由等はニュース誌7月号総会記事内に掲載予定です.）

［Research Articles］

1. Sedimentary facies and biofacies of the Torinosu Limestone in the Torinosu area, Kochi Prefecture, Japan

Hiromichi Ohga, Bogusław Kołodziej, Martin Nose, Dieter U. Schmid, Hideko Takayanagi and Yasufumi Iryu

一ツ淵鉱山（高知県佐川町鳥巣地域）に分布する鳥巣石灰岩の堆積相および生物相

大賀博道・Bogusław Kołodziej・Martin Nose・Dieter U. Schmid・高柳栄子・井龍康文

高知県一ツ淵鉱山に分布する上部ジュラ系～下部白亜系（チトニアン階～ベリアシアン階）鳥巣石灰岩（層厚55.5 m）の堆積学的・古生物学的検討を行った．本鉱山の鳥巣石灰岩は，干出面を境として上部と下部に区分され，両者は堆積相と化石相に基づいて，それぞれ２つおよび３つのユニットに細分される（下位より順にユニット１～５とする）．ユニット２，３，５から，石灰海綿（層孔虫およびケーテテス類），マイクロエンクラスター（主に*Lithocodium aggregatum*と*Bacinella irregularis*），微生物岩が多く認められた．造礁サンゴの産出頻度は相対的に低く，富栄養あるいは濁った海域に特有の造礁サンゴ（Microsolenidae属）が卓越する．層序・堆積相・化石相の検討結果より，本鉱山でみられる鳥巣石灰岩の堆積環境は，海水準変動とそれに関係した陸源砕屑物の流入に規制されていたと推定される．

Key Words : Lower Cretaceous;microbialite, microencruster; stromatoporoid, Torinosu Limestone, Upper Jurassic

2. Petrographic study of the Miocene Mizunami Group, Central Japan: Detection of unrecognized volcanic activity in the Setouchi Province

Eiji Sasao

中部日本に分布する中新統瑞浪層群の記載岩石的研究：瀬戸内区における未知の火山活動の検出

笹尾英嗣

中部日本に分布する中新統瑞浪層群の供給源を明らかにするため，単一のボーリングコアから採取した砂岩の全鉱物・重鉱物組成，斜長石の組成，および全岩化学組成分析を行った．その結果，研究に用いた砂岩は，１）黒雲母とアルバイトからオリゴクレイスが卓越するもの，２）角閃石とラブラドライトが卓越するもの，３）輝石とアンデシンが卓越するものの３つに区分された．このうち，黒雲母が卓越するタイプは基盤の花崗岩から，その他の２つは火山灰として供給されたと推定された．瑞浪層群に火山灰を供給した火山活動は，鉱物・化学組成の変化から２つのフェーズがあると考えられた．瑞浪層群の砂岩の記載岩石学的性質からは，これまでに知られていない火山活動の存在が示唆された．

Key Words : chemical composition, Mizunami Group, petrography, plagioclase indices, provenance

3. Theoretical and quantitative analyses of the fault slip rate uncertainties from single event and erosion of the accumulated offset

Zhikun Ren, Zhuqi Zhang, Tao Chen and Weitao Wang

地震イベントの年代決定と累積オフセットの侵食が与える断層の平均変位速度の不確実性に関する理論的ならびに定量的解析

断層の平均変位速度は，断層の活動度や地震発生ポテンシャルを評価するための重要な指標であるが，その決定には，地震イベントの年代決定に起因する問題や累積オフセットの侵食による改変にともなって生じる不確実性を伴うことが多い．この研究では，信頼度の高い断層の平均変位速度を求めるための方法として差動法を提案する．この方法は，横ずれ断層に沿った新旧段丘のオフセットの差異と年代差の比で断層の平均変位速度が求められ，従来の方法で生じた誤差を取り去ることができる．この差動法を適用することにより，Altyn Tah断層とKunlun断層の平均変位速度を～５－10 mm/年に修正することができた．このような遅い平均変位速度は，従来の測地学的ならびに地質学的データに基づいて求められた変位速度や短縮速度，ならびにこれらの断層の主要部分で発生した大規模地震の1000年オーダーでの発生間隔と合致する．

Key Words : differential method, erosion of the accumulated offset, fault slip rate;, Holocene, single event effect

4. Paleomagnetic constraints on Miocene rotation in the central Japan Arc

Hiroyuki Hoshi and Masakazu Sano

日本弧中部の中新世回転運動に対する古地磁気学的制約

星　博幸・佐野正和

本州中部，設楽地域北部に分布する津具火山岩類（約15 Ma）の玄武岩と安山岩（溶岩，貫入岩）を12地点で採取し，岩石磁気を測定した．９地点で決定された正極性および逆極性の古地磁気方位はほぼ南北の偏角を示し，同時期の平行岩脈群から報

告されている古地磁気方位と有意な差がない．今回取得した方位と平行岩脈群の既報方位を合わせて，約15 Ma古地磁気方位と古地磁気極を決定した．今回決定した古地磁気方位の考察から，筆者らは次の3点を結論した．(1) 本州中部の「ハ」型屈曲（関東対曲）構造の西翼側は，17.5～15 Maに西南日本主部に対して反時計回りに回転した．(2) 本州弧と伊豆-小笠原弧の衝突開始は15 Maよりも前である．(3) 日本海拡大に伴う西南日本の時計回り回転運動は15 Maまでに完了した．

Key Words : arc-arc collision, Izu-Bonin (Ogasawara) Arc, Japan Arc, Middle Miocene, paleomagnetism, Shitara, tectonic rotation, Tsugu volcanic rocks

5. Major element variation of the Skaergaard pyroxene and its petrologic implications

Yun-Deuk Jang and H. Richard Naslund

スケアガード貫入岩体の輝石の主要元素組成変化とその岩石学的な示唆

スケアガード貫入岩体の成層帯LS，上部周縁帯UBS，周縁帯MBS中の輝石の組成変化を明らかにするためにEPMA及び鉱物分離による分析を行った．一般にどの帯においても岩体の固結に伴って，輝石は同様の主要元素組成変化を示す：SiO_2, MgO, Al_2O_3, and TiO_2は漸減し，FeOとMnOは漸増し，CaO, Fe_2O_3, and P_2O_5は系統的な変化を示さない．LSとMBSの輝石はWager and Brownが報告したのと同様の組成変化を示す．晶出温度は概ね従来の推定に近い変化を示す．スケアガード貫入岩体の輝石が見せる分化に伴うなめらかな主要元素組成変化は，最初の貫入後に注入されたマグマがほとんどなかったことを示している．これらの結果は，スケアガード貫入岩体は閉じたマグマ溜り内のその場での結晶化を代表するものであるという考えを支持する．

Key Words : crystallization temperature, differentiation, geochemical variation, pyroxene, Skaergaard intrusion

6. Geological setting of basaltic rocks in an accretionary complex, Khangai-Khentei Belt, Mongolia

Kazuhiro Tsukada, Yuki Nakane, Koshi Yamamoto, Toshiyuki Kurihara, Shigeru Otoh, Kenji Kashiwagi, Minjin Chuluun, Sersmaa Gonchigdorj, Manchuk Nuramkhaan, Masakazu Niwa and Tetsuya Tokiwa

モンゴル国ハンガイーヘンテイ帯の付加体中の玄武岩の形成場

束田和弘・中根 有城・山本鋼志・栗原敏之・大藤　茂・柏木健司・Minjin Chuluun・Sersmaa Gonchigdorj・ Manchuk Nuramkhaan・丹羽正和・常磐哲也

モンゴル国ハンガイ－ヘンテイ帯の付加体中に含まれる玄武岩類について，その産状と地球化学的特徴を記載した．この玄武岩類は，MORBに比べて K，Ti，Fe，P，Rb，Ba，Th，Nb に富み，プレート内アルカリ玄武岩の特徴を有する． またこの玄武岩類は中期古生代の層状放散虫チャートを整合に覆われることより，遠洋域にて形成されたと推定される．したがって，中期古生代の遠洋域（モンゴル－オホーツク海）にて，アルカリ玄武岩質火山活動が起こっていたことが明らかとなった．

Key Words : accretionary complex, Central Asian Orogenic Belt, Khangai-Khentei Belt, Mongolia, OIB

7. Transport process of sand grains from fluvial to deep marine regions estimated by luminescence of feldspar: example from the Kumano area, central Japan

Masaaki Shirai and Ryo Hayashizaki

長石のルミネッセンス特性により推定された砂粒子の河川から深海にかけての運搬過程：熊野地域における解析例

白井正明・林崎　涼

ルミネッセンス年代測定の原理を利用した露光率（BLP-2）という指標を提案し，河川から深海に到る砂粒子の運搬過程の評価を試みた．紀伊半島南東の熊野地域において，長石粒子の赤外光励起ルミネッセンス強度（IRSL）から現世堆積物試料の長石粒子に露光粒子が含まれる割合（BLP-2）を算出した．その分布をもとに，熊野トラフ底の表層堆積物中のタービダイトの起源となったイベントの性質をはじめ，熊野地域の砂粒子の運搬についていくつかの推察を行った．今後測定粒子数を増加させることにより客観的なデータを得ると共に，ルミネッセンス年代測定を適用可能な更新世後期まで遡って砂粒子の運搬過程に新しい知見を加える事が期待される．

Key Words : bleaching, feldspar, infrared stimulated luminescence, origin of turbidites, sand grain, sediment transport process

Island Arcからのお知らせ

【Island Arc 名称変更についてのご報告】

新名称の募集に際し，Island Arcを含め41の提案をいただきました．

これらの名称について，Editorial Advisory Board, Associate Editors, Editor-in-Chief, Executive Editorにて，協議を踏まえ計2回の投票を行いました．

その結果，現雑誌名「Island Arc」の継続を支持する意見が多数を占め，**「Island Arc」を継続することとなりました．**

今後のIsland Arc誌発展と改善に向けて，編集委員・編集事務局一同，努力いたします．

原稿のご投稿や査読のご協力を今後ともよろしくお願いいたします．

Island Arc編集委員長
伊藤　慎・海野　進

【2013 Island Arc賞】

今年のIsland Arc賞は，Hattori et al.（2010）“Subduction of mantle wedge peridotites: Evidence from the Higashi-akaishi ultramafic body in the Sanbagawa metamorphic belt.”（Island Arc, Vol. 19, p. 192-207）に贈られます．日本地質学会第120年学術大会（仙台大会）において授賞式が行なわれ（9月14日），第一著者の服部恵子博士（オタワ大学）も出席される予定です．論文紹介と受賞理由はこちらから，http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/iar.12029/abstract

【最多ダウンロード賞】

2013年最多ダウンロード賞は，Ayalew and Ishiwatari（2011）“Comparison of rhyolites from continental rift, continental arc and oceanic island arc: Implication for the mechanism of silicic magma generation”.（Island Arc, Vol. 20, p. 78-93）に贈られます．本賞は，2007年～2011年に出版された論文のうち，2012年に最もダウンロードされた論文に対しWiley社より与えられます．受賞論文はこちらから，http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1440-1738.2010. 00746.x/abstract

火山学勉強会2012

無盡真弓
東北大学大学院・理学研究科
地学専攻・修士2年

全国で火山を対象にして研究をしている大学院生同士で，気軽に議論できる仲間を増やしたいと思い，東工大・東北大の有志で勉強会を企画しました．2012年は以下の内容で行いました．

＜目的＞
(1)「火山」という対象において，自分の専門分野と異なる視点の研究内容に触れ，火山噴火現象を多角的に理解する素養を若いうちから身につける．
(2) 同世代の親睦を深める．
＜対象者＞火山を対象に，A岩石・物質科学系，B地質系，C観測・モデリング系などの専門分野で研究活動を行っている大学院生（火山が専門でなくても，本会に興味のある方は歓迎）
＜日程＞2012年９月７日（金）～９月９日（日）
＜場所＞筑波大学山中共同研修所
＜内容＞
(1) 基礎内容の学習：他の専門分野を理解するために必要な前提知識を勉強する．自分の行っている研究分野の基礎内容について質疑応答を含めて１時間で発表する．
(2) 研究発表：自分の行っている研究内容について議論を含めて30分の発表を行う．
(3) 研究紹介：多くの人に自分のことを知ってもらう．研究内容や興味を持っていることについて簡潔に15分にまとめて発表する．
(4) 富士山テフラ巡検

はじまり

2012年３月，まずは東北大内で試験的にセミナーを開くことになりました．全国の学生を集めて勉強会を開催し，果たして上手くいくのか不安だったからです．東北大には，火山に関わっている研究室が地球物理学専攻に1研究室，地学専攻に２研究室あります．しかし，物理と地学ではバックグラウンドが違いすぎるため，学生間では交流がない状態でした．そこで，地球物理学に所属するポスドクの知り合いの方に学生を紹介してもらい，地球物理の研究室に出向き，勉強会のコンセプト案のプレゼンを行いました．初対面で緊張したものの，「おもしろそう！」と乗ってくれたときは，本当に嬉しかったです．そのとき思ったことは「とにかく動いてみれば，なにか始まる」ということです．そして，東北大内でセミナーを定期的に行うことになりました．

偶然から始まった準備活動

2012年５月の日本惑星連合大会．M１の私にとって初めての学会発表だったこともあり，積極的にいろいろな人と話しました．この院生コーナーの話を持ち出して下さった編集担当の細井さんと知り合ったのもこのときです．そして，東工大の院生に勉強会のことを話すと，東工大でも最近行われていない火山若手の会を復活させる話がでているとのことでした．このチャンスを逃してはいけないと思い，連合大会会期中，東工大，東北大のメンバーで，一気に話を詰めていきました．全国から来て欲しいこと，そして火山若手の会を知らないメンバーの初めての企画であることから，やはり日本一の山「富士山」の麓で行おう，ということになりました．

連合大会後は，東工大のメンバーが宿泊・巡検関係，東北大のメンバーが予定・連絡・プログラム関係を分担して，準備を進めていきました．自分たちの伝手を頼りに，一通，一通，メールを出して参加者を募りました．ほとんど話したことがない人たちばかりでしたが，快い返事が大変嬉しかったことを今でも覚えています．そして，東北大，東大，東工大，明治大，信州大，京大，九大から総勢二十名の大学院生（19名），学部生（１名）が集まりました．

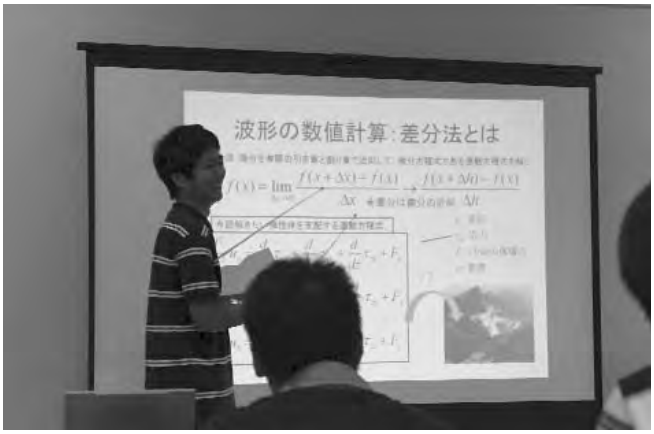
火山学勉強会2012！

2012年９月，話が持ち上がってからわずか３か月ですが，火山学勉強会が開催されました．A岩石・物質科学系；９名，B地質系；４名，C観測・モデリング系；７名の全員が発表しました．

火山噴出物の性質，挙動から噴火現象を理解しようとする物質科学系の研究，噴出物の空間的分布・化学組成から時空間的に広い視点で，噴火現象を復元しようとする地質系の研究，地震波形や地殻変動による圧力の変化から，力学や流体動力学のモデリングを行ったり，上昇するマグマをダッシュポットとバネの相互作用で説明するモデルを立てることで，マグマの動きを見ようとする物理系の研究，現在活動している火山ガスの観測から，マグマ活動を推測する研究…などなど様々な視点から見た「火山」を知ることができました．また研究の裏話として，物理系の人たちの，重い観測機材を持って山に登り，観測を行っている苦労話やキャンペーン観測の話は，今まで私が勝手に抱いていた物理の人たちのイメージとは違うもので，新たな発見でした．同じ「火山」を見ていても，おそらく自分と他人とでは見え方が異なるんだと思うと，もっと広い視野の中で自分のモデルを構築していきたいと思いました．

異なるバックグラウンドの人にも，わかりやすく伝えることを意識した発表をし，質疑はいつでもしていい形式をとったことで，活発な議論となりました．学会では聞けない裏話や，基礎の基礎まで聞くことができたため，聞く側はもちろん，発表する側もいい勉強になりました．学会との差別化ができ，そして若手でだけで行う意義が十分に感じられるセミナーになったと思います．火山噴火を理解するためには，自分の分野に拘泥することなく，統合的な理解が必要だと感じました．

また，半日という短い時間でしたが，富士山テフラ巡検を行いました．古富士や宝永噴火の火山砕屑物の説明を受け，観察を行いました．案内は富士常葉大の嶋野岳人先生にお願いしました．私たち若手のために来て下さった嶋野先生には大変感謝しています．巡検では，テフラ巡検が初めてである観測・モデリングの人たちと，普段か



セミナー風景．スライドやレジュメを用意して発表を行いました．質疑応答が活発なセミナーとなりました．

ら地質調査を行っている人たちの装備に歴然の差がありました．そして，目の輝き方にも！….というと少し語弊がありますが，それぞれで見るべきポイントを教えあい，充実した時間を過ごすことができたと思います．

朝，昼，晩は食堂で，皆で準備して食事をしました．小学生の様に食事の前後に「いただきます」「ごちそうさま」の号令をかけ，和気あいあいとした時間を過ごしました．お風呂は近くの温泉に行きました．東北の温泉ほど泉質がきつくなく，物足りない人もいたみたいですが，夜の部に向けて，リフレッシュすることができました．毎晩10時，11時までセミナーをした後は，各地から持ち込まれた自慢のお酒で宴会です．議論をする人たちもいれば，卓球でもりあがる人，写真撮影大会，夜の森での肝試し…．初対面の人が多かったにも関わらず，火山という共通点だけで，これだけ打ち解けることができたことに，正直驚きました．

おわりに

当日までは，うまくいくかどうか不安の方が大きかったのですが，当初の目的以上に親睦を深められたと思います．あの頃の写真を見返してみると，みんながいい笑顔をしていて，この会を開くことができて本当によかったと思います．秋に行われた学会でも，一緒にご飯を食べに行ったり，飲み会をしたり，火山学勉強会でできた縁は続いています．

今年は九州大学の入山　宙さんが幹事で準備しています．勉強会の内容は，そのときの幹事の意向を大切にし，自由ということにしています．第１回火山学勉強会は，試験的かつ伝手を頼りに人集めを行いましたが，その後の学会等で初めて会う大学院生にも積極的に声掛けを行っています．より多くの人たちに参加して頂き，盛り上がっていけたらと思っています．この記事をみて，少しでも興味を持った方がいましたら，是非ご連絡して頂けると幸いです．

火山学勉強会HP：http://kazangakubenkyoukai.web.fc2.com/index.html

無盡真弓　東北大学理学研究科地学専攻火山学・地質流体研究室　修士２年
E-mail: b2sm6032@s.tohoku.ac.jp

この会を開くにあたり，一緒に企画，運営を進めていった東工大の潮田雅司さん，東北大の松本恵子さんには心より感謝しています．そして，この勉強会に参加し，盛り上げてくださった皆さん，本当にありがとうございました．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

yhamada@eps.s.u-tokyo.ac.jp	**濱田洋平（東京大）**
gsc421511@s.okayama-u.ac.jp	**湯川弘一（岡山大）**
12ND404L@mcs.ibaraki.ac.jp	**細井　淳（茨城大）**
3SC12024G@s.kyushu-u.ac.jp	**佐藤峰南（九州大）**

富士山テフラ巡検風景．みなさん思い思いに富士山をみました．

宴会風景．ただの宴会から，卓球大会，写真撮影会，肝試し…と朝まで，盛り上がりました．

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

2012年度
第９回執行理事会議事録

期　日：2013年３月９日（土）13:00～17:00
場　所：地質学会事務局
出席者：石渡会長　ウォリス副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　伊藤（15時早退）内藤　星　松田　山本　山路
（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：井龍　坂口　高木　中澤　西　平田　保柳　山口
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者10名，委任状８名，合計18名の出席．
＊前回議事録の確認をし，承認した．

Ⅰ　審議事項

１．来年度の事業計画基本方針最終案の確定
　中期ビジョンの検討を開始することを追加する．地質情報の共有化についてのコメントに振れる．
２．地質学雑誌編集委員会規則の改正案の確定確認
　理事会議案とする．
３．論文賞の取り扱いについて
　論文の定義を運営規則16条の２項に追加すること，これに伴い，２項（3）号のIA賞の文言から，「・・・（総説を含む）」を削除することとし，理事会に提案にする
４．「（仮称）地質地盤情報活用協議会」（全地連）の設立参加要請について
　回答期限　3/21
　地質学会として参画する．委員は応用地質部会長の小嶋理事に依頼した．
５．125周年事業について，開催時期（年会との関係），事業規模，その他
・周年事業の基本資金として，現在引当金として留保されているかつての「総目録刊行引当金」（約260万）を「125周年事業準備金」として名目変更して使用できるようにすることを理事会に提案する．
・事業準備委員会を立ち上げる．事業内容としては，国際シンポジウムの企画する，地質の日に合わせて学会員の参加・一般へのアピールができるような行事を全支部で一斉に実施すること，フォトコンの写真集を作るなどが考えられる．素案を修正してこれらのことを理事会に提案する．
６．総会議案について
・総会議案は，以下の項目とすることを理事会に提案する．
　１．2012年度事業報告，２．2012年度決算報告，３．選挙規則の改正，４．2013年度事業計画，５．2013年度予算案
・フォトコンの表彰式のために会場に作品を展示することを検討する．
７．中期ビジョン改訂WG委員の選出：各部会よりの推薦その他，現在までの推薦
　棟上俊二（岩石：福岡教育大）川辺孝幸（環境地質：山形大）須藤　斎（古生物：名古屋大）藤原　治（第四紀：産総研）内野隆之（地域地質：産総研）柏木健司（応用地質：富山大）丹羽正和（構造地質：原子力開発機構）須藤　宏（坂口推薦：応用地質）
　推薦を元に決定するが，分野の偏り（民間が少ない），年齢構成等を考慮すべき．常務と副常務（委員長）で相談する．
８．理事会議案の確定
　１）事業計画基本方針最終案，２）決算予想案・予算案，３）各賞受賞者の選出，４）中期ビジョンの改定作業について，５）125周年事業について，６）論文賞の対象論文の範囲についての検討，７）地質学雑誌編集委員会規則の改正案，８）名誉会員のあり方の検討について＝シニア会員の問題など，９）総会議案の決定
　上記のとおり承認した．
９．Offshore Technology Conference Asia 2014 ：マレーシア　クアラルンプール3/25-28開催の後援依頼については，学会員の参加が見込めるような会議でもないことから見合わせることとした．

Ⅱ　報告事項

（1）全体的報告

１）名誉会員推薦委員会からの報告
　ウォリス理事から，現状報告があった．
２）名誉会員WG報告
　ウォリス理事から，理事会への報告原案が示された．
３）その他
・原発審査のピアレビューの座長を３/８につつがなく済ませたことが石渡会長から報告された．
・会員外の死去に伴う対応は原則として行わないことを確認した．

（2）運営財政部会：総務委員会（西・山本）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１．東レ科学振興会より平成25年度の東レ科学技術賞ならびに科学技術研究助成の募集案内→News, HP, geo-flashへの掲載．また，今年度受賞者，授賞式の案内（３/14）には欠席の返事をした．
２．第10回学術振興会賞受賞候補者（45歳未満）の推薦について，受付４/15-17，学会〆切３/31→News, geo-flash, HPに掲載
３．消防庁消防技術政策室より，「消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の公募案内→募集期間２/７-３/７，消防庁の指定テーマによるもの→geo-flash, HPに掲載
４．地球化学研究協会より学術賞「三宅賞」および「進歩賞」（奨励賞改め，1973年４月以降生まれの方）の公募案内，８/31〆切→News, geo-flash, HPに掲載
５．海洋研究開発機構「ちきゅう」10年計画国際ワークショップ（CHIKYU+10 International Workshop）（４/21-23）の後援を承諾
＜会員＞
１．今月の入会者（３名）
　正（院割）会員：佐藤真一（2012年度入会希望）植原和樹（2013年度から）北川祐介（入会年度確認中）
２．今月の退会者（２名）
　正会員（２名）：金　容義，鈴木稔弥
３．今月の逝去者（２名）
　正会員：遠藤秀正（2012年11月29日），樽良平（2013年２月27日）
４．2013年１月末日会員数
　賛助：27　名誉：69　正会員：3979（正会員：3782，正（院割）会員：186，正（学部割）会員：11　合計　4079（昨年比 －74）
＜会計＞
・３/22　会計委員会開催，予算案作成予定

（3）広報部会：広報委員会（内藤・松田）

・３/４　フォトコンテストの審査を行った．応募総数205点
　最優秀賞１件，優秀賞３件・ジオパーク賞１件，入選７件を選出
・入賞写真の展示公開会場探索中．
・「地質学者に聞いてみよう」３件の質問あり．

（4）学術研究部会：行事委員会（星）

・仙台大会関係報告
・一部トピックセッションのレギュラーセッション化，既存レギュラーセッションの統合（学際的レギュラーセッションの新設）などの報告があり，承認した．
・レギュラーセッションでの招待講演を，ルールを決めた上で認めることとした．トピックセッションと同じルールを適用する．
・レギュラーセッションの他学協会との共催を認めることとした．
・新エネルギーや新資源に関する研究・教育・普及等を本学会も強化するために，関係セッションにおける招待講演等を推進していく．
・仙台大会の業務をアカデミックブレインズに委託し，会場設置，機器レンタル等の業者は地元仙台の業者を使ってもらうこととした．機器設備等は予算活用と支出抑制のため，見積り内容等の詳細検討中．とくにPC系の設備等は可能な範囲で簡素化を図る．

（5）学術研究部会：国際交流委員会（井龍）

・タイ地質学会との学術交流協定を更新した．
・ロンドン地質学会との学術交流協定について検討中．

（6）編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

１）編集状況報告（３月５日現在）．
・2013年度投稿論文総数22編［論説７（和文７）・報告２（和文２）・口絵２（和文１，

英文１）
・巡検案内書11］査読中37編（巡検案内書を含む）受理済み22編（うち通常号７　特集号15）
２）掲載状況
・119巻２月号：構造地質学と応用地質学の接点（2010. 4. 19受付）代表世話人：竹下徹（印刷・発送済み）
・119巻３月号：論説４，報告２　計64頁（予定）（校正中）
・119巻４月号（予定）：「中国地方の中・下部新生界の研究―層序・年代・テクトニクス・古環境」（2012. 2. 27受付）代表世話人：澤田順弘（入稿準備中）
３）編集委員会規則の改正案最終版策定

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）

・編集状況ほか報告
　IAの新名称についてEIC，EAB，AEによる第１回投票が行われ，トップ５を元に絞っていく予定．５月までに決着できればと考えている．

(8) 編集出版部会：企画出版委員会（山口）

１）リーフレット関係
・三浦半島：2013年度中には完成させたいとのこと．地質図の原図作成を業者に依頼したいとのことで，とりあえず参考見積りを取ることを承諾した．
・新企画：青木ヶ原たんけんマップについて近日中に企画書が提出される予定．
２）電子出版関係
「白滝ジオパーク」および「地学を楽しく」は井龍理事の担当とし，校閲等出版に向けての準備を急ぐこととした．概ねのスケジュールは，４月中旬校閲（修正も含め）終了，５月下旬の公開準備完了を予定している．
公開手段についての検討は急ぎ必要．（Amazonなどを使うか独自か等）
　校閲は，今回は緊急対応として執行理事会で分担して行うが，今後は編集委員会を個別に作ることも必要．
３）超地球史年表：外部査読依頼中（２名）
　岩波書店が出版に興味を示し，デザインを含めて，やってくれそう，印刷サイズは（岩波が入ることで）再検討の必要があり．折り畳んで書籍の体裁になる可能性もあり．他の地質学会出版物のように学会監修なり編集なりの立場を明確にする必要がある．
４）フィールドジオロジー，８巻および９巻の売れ行き情報
　昨年９月に1500部印刷し，現在８巻260部，９巻60部の残で販売は好調とのこと．再版の際にはとくに９巻の正誤表を反映させるよう確認する．

(9) 社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）

１）2013年度地質の日イベントについて（中澤理事）
・街中ジオ散歩 in Tokyo（応用地質学会との共催）「石神井川がつくる地形の移り変わりと地質」（５/12実施）：深田研に共催を申し入れ，講師派遣（池田　宏氏）の依頼をした．
・支部の行事（これまでに出ているものについて）
北海道支部：展示「豊平川と共に―その恵みと災い―」（４/23-６/２北大博物館），
近畿支部：講演会「大阪平野の地盤環境と地盤災害」（５/12実施）
西日本支部：展示，体験コーナーなど「身近に知る　くまもとの大地」（５/11実施）
２）2013年度春季地質調査の研修（中澤理事）
　産総研から共催の承諾をとった．HP掲載で広報開始
　開催日：５月27日～31日まで
　講師：徳橋秀一・辻野　匠（産総研）

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

・フォトコンテストでは，ジオパーク地域を対象とした写真の応募が非常に増えたことから，優秀賞の枠を使って「ジオパーク賞」を設けることを提案し，選考委員会で了承された．ジオパーク賞は，人と地球（ジオ）との関わりをテーマとした写真を優先したいと考え，今回の選考では趣旨にかなった写真が選ばれた．

(11) 震災復興事業プラン検討WG（高木・西・藤本・斎藤）

・昨年度事業のうち，報告が出ていないものについて催促，今年度１件についても実施状況の確認中．

(12) その他

・原発審査のピアレビューの座長を３/８につつがなく済ませたことが石渡会長から報告された．
・会員外の死去に伴う対応は原則として行わないことを確認した．

2013年３月21日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）　石渡　明
署名人　執行理事　　斎藤　眞

2012年度
第10回執行理事会議事録

期　日：2013年４月６日（土）10:00～12:30
場　所：北とぴあ　802会議室
出席者：石渡会長　ウォリス副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　井龍　高木　中澤　内藤　西　平田　保柳　星　松田　山本，安藤議長　松田副議長
　オブザーバー　伊藤谷生理事
　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：伊藤　坂口　山口　山路
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状４名，合計18名の出席．
＊前回議事録を確認し承認した．

Ⅰ　審議事項

１．論文賞の対象論文の範囲についての検討
　最終案確認
　改正案のうち「著述」→「著作」と修正した上で理事会に提案することを承認した．
２．125周年事業案の検討
　５項の「祝賀会の費用とともに」→「祝賀会の費用は」と文言修正をした上で理事会に提案することを承認した．
３．中期ビジョンWG委員の選出
　推薦候補者の年齢構成，所属構成については，バランスを考慮して再検討する．
４．第49回東・東南アジア地球科学計画調整委員会（CCOP）年次総会国内組織委員会への参加および後援名義の使用の許諾
　後援を承認し，委員は渡部副会長とする．
５．IGCP608（安藤寿男代表）の後援依頼について
　後援を承認する．
６．日本歴史学協会の声明に関して
　会長名にて，仙台大会での関連するシンポジウム等の案内をもって返事とする．
７．ロンドン地質学会との学術交流協定について
　学術交流協定文書案の大筋は承認するが，条文についてはさらに検討する．
８．理事会議事運営の確認
　議長らと議事，資料等の確認を行い了解された．
９．その他
　電子出版の具体的方法については，執行理事会において急ぎ具体的に検討する（継続審議）．

Ⅱ　報告事項

(1) 全体的報告

１）立川断層関連報告（伊藤谷生理事）
　関東支部が協力した立川断層の一般公開とその後の断層発見を訂正する記者会見（東大地震研）についての経緯と状況説明があった．その上でこれまで立川断層だと思われていたトレンチから南側の地形は浸食崖の可能性が高いこと，セメント（グラウチング）を断層関連物質と認識してしまった原因とその改善策を学会としても検討する必要があることが報告された．
２）その他
　日本の地質学のレベルについて一般から質問があったが，匿名の質問でもあったのであえて回答はしなかった．

(2) 運営財政部会：総務委員会（西・山本）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１．朝永振一郎記念第８回「科学の芽」賞（筑波大学）後援依頼→例年通り承諾
　2012年度報告書送付
２．藤原科学財団「藤原セミナー」の募集：2014～2015に開催される自然科学分野のセミナーへの助成，〆切7/31→News, HP, geo-flashに掲載
３．日本学術振興会25年度「育志賞」の推薦，受付期間６/12-６/14，学会〆切５/31→News, HP, geo-flashに掲載
４．日本原子力学会より，平成24年度の原子

力総合シンポジウム（共催）は，東電福島関係のシンポ等で調整不調となり，年度内の開催に至らなかった，25年度の開催についても現時点では未定との連絡があった．

5．地理学連携機構・地理学連合その他の合同総会（3/28）へは欠席として返事をした．

6．広島県「イノベーション人材育成事業補助金」随時募集→News, HP, geo-flash掲載

7．三浦半島活断層調査会から地質の日の行事として実施する「城が島観察会」の後援依頼があり，承諾した．

＜その他＞

・（株）ダイヤコンサルタント役員体制変更挨拶

・資源素材学会役員交代挨拶（会長　金子勝比古）

・山田科学振興財団理事長就任挨拶

＜会員＞

1．今月の入会者（5名）

正会員（4名）：淺見茂雄，豊田洋一，渡辺洋二，田上　響

正（院割）会員（1名）：池田咲子

2．今月の退会者（201件）→回覧　2012年度末退会者・除籍者一覧

退会者（102件）：賛助1件，正会員89名，正〔院割〕会員12名

除籍者（99名）：正会員　99名　会費滞納による

3．2013年1月末日会員数

賛助：26　名誉：69　正会員：3780（正会員：3594，正（院割）会員：175，正（学部割）会員：11　合計　3875（昨年比 −90）

4．2013年度50年会員　17名（1963年入会者）

飯泉　滋　宇井啓高　蛯子貞二　大口健志　小河靖男　小林治朗　近藤　務　戸野　聡　平野英雄　平野昌繁　藤原嘉樹　丸山孝彦　室井　晋　矢内桂三　柳　哮　吉田　勝　米山正次

5．会員数がほぼ3900人になり，予想通り減少している．

＜会計＞

・会計委員会にて決算予想案，予算案作成

・事務局職員澤木（2001年〜2012年4月15日，産休1年除外）・堀内（2002年4月1日〜2012年3月31日）の両名は勤続10年に達したので規定により3万円の祝い金を贈呈することとした．

・学術著作権協会より複写使用料分配通知（2011年度JRRC再委託分）77,687円

・大会開催費（収支相殺）に980万を予定している．科研費（一般公開）の採択の可否によっては，市民向け行事の経費負担も増えるので，状況は大きく変わる（申請150万）．

・出版費が逼迫している．ジオルジュの発行は意味あることではあるが，経費負担について検討が必要．

・IAの契約更改が迫ってきている．IAの出版費としてオンライン購読配当収入に差し引き分として100万程度含まれている．今後も同じ程度の費用が見込まれる．

（3）広報部会：広報委員会（内藤・松田）

・5/18フォトコン表彰式において，会場で入賞者の写真を展示することとした．

・フォトコン入賞写真の展示公開は，5月下旬から埼玉県立自然の博物館でおこなうこととなった．その他，地方の博物館での展示も予定．

（4）学術研究部会：行事委員会（星）

・学術大会の共催・同時開催について

今後，他学会との共催や同時開催を積極的にすすめるかの検討が必要．当学会は2-3年先まで開催地を決めているので，他学会との共催・同時開催を最初から計画しておくのは難しい．日程が折り合えば検討するという程度で良いのではないか，との意見があった．理事会でも意見を聞くことにする．

・仙台大会の津波堆積物巡検のトレンチ掘削（予定）について

プレ巡検およびポスト巡検のため2回掘る必要があるとのこと．2回分の費用見積もりが約136万円．学会が全額を負担するのは不可能なので，再度業者と交渉が必要．掘削を1回にする，規模によってはスコップで掘るのでも十分ではないかとの意見があった．

（5）学術研究部会：国際交流委員会（井龍）

・モンゴルとの協定を結んだ際のモンゴル地質学会の会長が環境大臣に就任したと話題提供があった．

・GSL（ロンドン地質学会）との相互協力についての交渉が進行している．

（6）編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

1）編集状況報告（4月1日現在）．

・2013年度投稿論文　総数26編［論説8（和文7　英文1）・報告3（和文3）・口絵3（和文2，英文1）・巡検案内書12］

・査読中32編（巡検案内書を含む）受理済み19編（うち通常号10　特集号9）

2）掲載状況

・119巻4月号：「中国地方の中・下部新生界の研究―層序・年代・テクトニクス・古環境」（2012.2.27受付）代表世話人：澤田順弘（約100ページ，校正中）

・119巻5月号：通常号（予定）

3）編集委員交代

・編集規則の改正案とともに，継続ならびに新任委員，退任委員を理事会に提案する．

新任：野々垣進（情報地質，産総研）・白石史人（炭酸塩岩堆積学，広島大）・荒戸裕之（砕屑岩堆積学，国際石油開発（株））

退任：能美洋介（岡山理科大）・高野　修（石油資源開発）・七山　太（産総研）

（7）編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）

・編集状況ほか報告

（8）編集出版部会：企画出版委員会（山口）

1）超地球史年表（清川）：2人に査読依頼，うち1人から受領済，もう1人は4月末を予定．岩波書店からの出版の可能性を検討中．

2）富士山・青木ヶ原のたんけんマップ（小尾靖ほか）：企画提案書の提出あり．現在検討中．

3）長瀞たんけんマップ（本間ほか）：著者陣から，平成25年度中の刊行希望で，是非執筆したいとの連絡あり．新年度の人事異動の結果を踏まえ，編集担当などの人選を行い，企画委提案書の作成を行う予定とのこと．

4）三浦半島リーフ（蟹江）：特に進展無し．現在三浦半島の地質図に関して投稿論文を準備中．

5）電子出版関係

・「白滝ジオパーク」および「地学を楽しく」の原稿の校閲は間もなく終了の見込み．

白滝は内容が難しく，一般の方が理解できる程度まで簡単にすることが必要．

地学を楽しくは，大きな修正はない見込み．

・公開手段についての検討が必要

（9）社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）

1）「地質の日」本部事業，支部事業

2）2013年度春季地質調査の研修（中澤理事）

・申し込み者数は定員6名に達し予定通り実施される．

（10）ジオパーク支援委員会（高木）

・日本ジオパーク委員会：今年の申請予定地域は以下の通り．

GGN（希望）3地域：アポイ岳，白山手取川，霧島

JGN　10地域：三笠，鹿追，三陸海岸，佐渡，美祢市，四国西予，おおいた姫島，おおいた豊後大野，桜島，本部半島

・5月20日の公開プレゼンテーション（幕張国際会議場）は地域数が多いため，朝9時開始．

（11）地学オリンピック支援委員会（平田）

1）第5回日本地学オリンピック本選が3月24日〜26日の日程で行われ，大会の主な変更点は，以下の3点．

・今回は参加者が倍増：56名の予選突破者（中3〜高2）と，チャレンジ受験者4名（中1・2）

・今回から優秀賞受賞者10名を選出し，5月11−12日に最終選抜を行うこととなった．（これまではこの大会で日本代表4名を選出していた．）

・表彰式で，地球にわくわく自由研究コンテストの表彰も行われた．

2）とっぷレクチャーでは協賛団体の広報誌などを配布することが可能で，生徒たちへの参加賞の提供も受け付けているとのこと．日本地質学会でも広報誌などの提供を検討してほしい旨の要望があった．

（12）震災復興事業プラン検討WG（高木・西・藤本・斎藤）

・昨年度事業1件未報告（催促中），今年度事業1件会計清算は済み

2013年5月18日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）　石渡　明
署名人　執行理事　　斎藤　眞

日本地質学会
2012年度第４回理事会議事録

期　日：2013年４月６日（土）
　　13：30～18：06
会　場：北とぴあ　802会議室（北区王子１-１）
出席役員　理事（28名）：安藤寿男　伊藤谷生　井龍康文　石渡　明　ウォリス・サイモン　永広昌之　笠間友博　川端清司　斎藤　眞　柴　正博　高木秀雄　竹内　誠　田村嘉之　内藤一樹　中澤 努　久田健一郎　平田大二　藤本光一郎　星博幸　保柳康一　松田達生　松田博貴　向山　栄　矢島道子　山田泰広　山本高司　脇田浩二　渡部芳夫
欠席役員　理事（22名）：天野一男　市川八州夫　伊藤　慎　大津　直　小山内康人　太田泰弘　狩野彰宏　川辺文久　清川昌一　小嶋　智　坂口有人　佐々木和彦　芝川明義　高橋正樹　竹下　徹　西　弘嗣　藤林紀枝　宮下純夫　宮田隆夫　村田明広　山口耕生　山路　敦
　監事（２名）：青野道夫　山本正司
その他出席者　オブザーバー　小川勇二郎会員　事務局：橋辺
＊成立要件：理事総数50名の過半数26名，本日の出席者28名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数15名
＊書記２名の選出：竹内 誠理事と山田泰広理事が選出された．

報告事項

１．執行理事会報告
１）12月～３月執行理事会議事録要点ほか（斎藤常務理事）
　2013-１～2013-３の執行理事会議事録に基づき，第７～10回執行理事会の要点が報告された．
２）その他
・運営財政部会会員担当：50年会員について（山本理事）
　新たに50年会員になった17名が紹介された．また会員数動向が報告され，会員減少を食い止めるための協力をお願いしたいとの発言があった．この１年間に逝去した会員が紹介され，黙祷を捧げた．
・Island Arc 編集状況報告（井龍理事；伊藤慎愼編集委員長の代理）
　震災の影響で総ページが大きく減少したが，その後投稿数が回復していること，特集号企画が進んでいることが報告された．またIsland Arcの名称変更の中間報告があり，提案された41案に対して，編集関係者での投票により，上位５つに対して，幅広い研究領域をカバーすることと特定地域に特化したものでない雑誌であることを考慮し，Island Arc, Global Geosciences Research, Progress in Geosciencesを候補とし，５月の総会までに最終報告ができるよう準備していると報告があった．
・行事委員会：年会関係報告（星理事）
　地質学会学術大会を単独開催にするか，学術大会の共催／同時開催をするかの基本方針について議論した結果，現状通りとする方針が確認された．
　学術大会のセッションの再編について，何年もトピックセッションとして採択され，発表数が多いものはレギュラーセッションに移行させることにして，仙台大会のセッション立てを決定したと報告された．レギュラーセッションでも招待講演が可能になったこと，レギュラーセッションが他学協会と共催にできるようになり，堆積系４セッションを日本有機地球化学会と共催すること，地質巡検の協賛依頼することなどが報告された．なお，仙台大会のキャッチコピーは６案の中から選考中である．
・社会貢献部会報告（中澤理事）
　５月開催の地質調査研修は定員に達し，秋にも実施予定があることが報告された．また，５月10日の地質の日行事として，本部企画「街中ジオ散歩in Tokyo」や支部企画が紹介された．

２．理事からの報告
１）日本ジオパーク委員会報告（高木理事）
　新たに申請予定地の紹介があり，候補地選考のための公開プレゼンテーションが５月20日に実施されることが報告された．
２）原子力規制委員会での断層調査について（藤本理事）
　有識者会議委員の選出経緯や現状報告があり，地質学会は委員数や露頭観察という点でも重要な立場にあるとの指摘があった．今後記者などにレクチャーなどを行っていく必要性があると報告された．また，以下のような質疑応答があった．
　大飯原発に関する会議ではYouTubeで公開され，委員会よりすぐにWEB上に情報が公開されたが，という質問に対し，敦賀原発以降は，冒頭５分のみ報道に公開されるように変わったとのこと．事業者からの情報はオープンなのか，との質問について，全てがオープンというわけではないが，会議に出された資料はすべてHPに公開されているとのことであった．
３）名誉会員推薦委員会報告（ウォリス理事）
　２月末までに１名の推薦があり選考を開始したが，推薦者より，本人が推薦辞退のため推薦取り下げの連絡があった．そのため，候補者がなくなり，本年度の推薦者はなしと報告された．
４）各賞選考委員会報告（井龍理事；竹下委員長の代理）
　問題点の申し送り事項として，論文賞と研究奨励賞の推薦数が少ないので，各専門部会が率先して推薦するようにして欲しいとの報告がされた．
　対象となる論文が減少しているので，投稿数を増やして欲しい，また柵山賞と研究奨励賞は性質が異なるので，柵山賞の対象年齢を引き上げてはどうか，選考体制がうまく機能していないのではないか，などの意見が出された．

３．その他
１）IUGS理事会出席報告および10月の仙台自然科学シンポジウム（小川勇二郎IUGS理事）
・IUGSとIGCPの組織や活動の相違について報告があった．４年ごとのIGCの間に異なった性質の地球科学会議を開催する動きがあることが報告された．活動の中に日本露頭100選のような露頭保全運動が含まれているとの報告がされた．
・10月19日～20日に仙台でG-EVER国際シンポジウム（IUGS共催で資金支援あり）が開催されるとの報告がされた．招待者は国内外10名ほど．
２）中期ビジョン改訂WG委員の選任（斎藤常務理事）
　分野等を考慮して検討中．追加委員の就任依頼が坂口理事よりあるかもしれないとの報告があった．
３）立川断層トレンチ調査における人工物誤認について（伊藤理事）
　人工物誤認の経緯について説明があり，地質学会として何をすべきか，またあると思われていた変動地形もなかったことに対して，地質学会として今後何をすべきかを考えて欲しいとの意見が出された．
４）地学オリンピック（久田理事）
　2016年国際地学オリンピック（三重大会）の組織委員長に平朝彦氏の内諾が得られたことが報告された．またNPO法人地学オリンピック日本委員会の理事長として，久田氏が５月に就任する予定であることが報告された．
５）フォトコンテスト（内藤理事）
　５月18日に表彰式が開催され，その後，埼玉県立自然の博物館や兵庫県立人と自然の博物館で作品展が開催されることが報告された．

審議事項

１．2012年度事業報告案（斎藤常務理事）・決算案（山本理事）
　事業報告および決算案については概ねこの内容・項目で総会に付議されることが，全会一致で承認された．なお，決算は５/15に会計監査の予定であることが報告された．
２．2013年度事業計画基本方針最終案（石渡会長）
　基本的にこの内容で総会に付議されることが全会一致で承認された．なお語句を修

正した後の文面をメールで送付することとなった．

3．2013年度予算案および引当金名目変更の件（山本理事）

予算案ならびに，とくに125周年事業に関する事業資金として，現在ある総目録刊行引当金を「125周年事業引当金」と名目変更することが提案された．当引当金は目録の刊行がなくなった後もそのまま保留されていたものである．基本的に提案どおり総会に付議されることが全会一致で承認された．

なお，前年度実績と比較する形で予算書を作成すべきではないか，地学オリンピックへの協賛金に関連して，国際地学オリンピックの予算案は文科省への報告のために，2015年春には確定していなくてはならない．現在，2014年に限り寄付金優遇措置を受けられるよう準備中なので，地質学会からの協賛金も 2014年度にまとめてほしい，などの意見が出された．

4．各賞受賞者の選出

本件の審議においては，利益相反の対象となる井龍理事，ウォリス理事を除いたうえで，各賞選考委員会から提出された原案通り，総会に付議されることが承認された．なお，井龍会員と岡本会員の対象研究テーマについて，修正が各賞選考委員会に要請された．

5．中期ビジョンの改訂について，WGの設置（斎藤常務理事）

委員は各部会より推薦を受け現在調整，選任中，決定次第，坂口理事が担当となって委員会を立ち上げることが全会一致で承認された．

6．125周年事業について（斎藤常務理事）

執行理事会より示された方針で進めることが全会一致で承認された．準備委員会委員長として矢島理事が選出され，委員長が次回理事会に他の委員（3名程度）案を提示することとなった．

7．論文賞の対象論文の範囲についての検討（斎藤常務理事）

この件は前回理事会からの懸案事項であるが，今回再提案された関連の規則変更案とともに執行理事会で再度検討後，改めて次回理事会に提出することとなった．主な意見は下記の通り．

・掲載されたすべての著作を論文とする方向性で良い．
・提案内容は運用で対応可能なので，選考委員会への申し送り事項として整理してはどうか．
・正会員をすべて会員と修正し，それに含まれる名誉会員を記載から削除してはどうか．
・非会員筆頭の優れた論文も将来的には対象に含めて良いのではないか．ただこれは学会の今後のあり方にもよる．
・IAのinvited 論文は対象に含めて良いだろう．

8．地質学雑誌編集委員会規則の改正案ならびに編集委員の選出（斎藤常務理事）

第9項の「委員」を「委員会」にした上で，改正案と編集委員選出案が全会一致で承認された．

9．名誉会員のあり方の検討について＝シニア会員の問題など（ウォリス理事）

現時点での検討内容が紹介され，さまざまな議論があったが，名誉会員に選挙権を付与することに異論はなかった．これまでの検討内容を整理して，執行理事会が原案を作成し理事会に提案すること，今後も検討を進めることが確認された．

10．総会議案の決定

原案通り，全会一致で承認された．

11．その他

1）支部運営規則への追加について

支部独自の表彰を行えるように運営規則「第4章支部」の4項に下記を追加する件は，原案通り全会一致で承認された．

<u>4　支部は，支部の表彰規則を定め，当該支部区の会員・非会員の個人および団体を表彰することができる．表彰に際しては，学会本部の表彰と重複しないよう考慮する．</u>

以上

2013年4月19日

一般社団法人日本地質学会
理事会議長　安藤　寿男
副議長　松田　博貴
代表理事：会長　石渡　明
理事：副会長　渡部　芳夫
理事：副会長ウォリス サイモン
以下出席理事の氏名・捺印続く

日本地質学会会員名簿作成アンケートの実施について

日本地質学会では，学会員相互の交流と親睦を図る目的で，会員名簿を発行することを運営規則にうたっております．2013年はその発行年にあたり，本年11月末日発行の予定で準備を行っております．

名簿の発行様式は前回と同様で，全会員を収録します．本会としては，個人情報保護法の制約はあるとしても，会員の皆様が上記の目的に沿って利用できるような，従来規模の名簿を作成したいと考えておりますので，調査の実施にご理解とご協力をお願いいたします．

また，名簿作成時の会員以外は配布対象とはせず，会員も含めて発行後の販売は一切行わないことはこれまでどおりです．

名簿作成までの手続きを次のように行います．

1．①「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更･登録カード」を提出していただく，もしくは，②学会ホームページから「会員のページ」へログインし，ご自身の情報を訂正・変更してください．

①名簿掲載アンケートを提出する場合：本アンケートは名簿掲載に関する確認も兼ねています．訂正，変更の有無に関わらず，名簿掲載選択項目について**掲載を拒否する項目**がありましたら，必ずアンケートの書き方の指示に従って掲載拒否の意思をお示し下さい（アンケートの書き方の詳細は後段を参照）．

②Web画面上から更新する場合：「会員のページ」へログイン後，会員メニューの「会員登録情報」画面でご自身の情報を確認し，情報の訂正・変更をして下さい．編集画面下側に会員名簿（冊子）への掲載について確認する項目がありますので，**掲載を拒否する項目には『□非掲載』にチェック（✓）をつけて下さい．**チェックのついていない項目は掲載承諾いただいたものとします．

①，②いずれの場合でも，掲載を拒否する項目がある方は必ず意思表示してください．チェックのついていない項目については掲載承諾いただいたものとします．なお，アンケートの返送のない会員（Web画面上で更新のない会員）については前回の名簿作成時と同様に「推定承諾」とみなし，2011年版会員名簿に掲載されている項目に準じて掲載いたします．

2．アンケート提出およびWeb画面更新締切：2013年10月4日（金）とします．

2013年6月
運営財政部会会員担当　山本高司

「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」記載について

本アンケート用紙（本誌別掲）は，基本的にWeb画面上で更新しない方に提出していただきます．アンケートには，会員として登録されている（登録できる）基本項目を，すべて挙げてあります．各項目の内容について訂正や変更がある場合には記入してお出しください．なお，会員名簿にはこれらの項目のうち，下記の名簿掲載項目（必須，選択）を載せます．選択項目については，個人の希望によりますので，選択項目について**掲載を拒否する項目がある場合には，該当する項目の□欄にチェック（✓）を入れ，**掲載拒否の意思をお示し下さい．チェックのついていない項目は掲載承諾いただいたものとします．

なお，アンケートの返送のない会員については「推定承諾」とみなします．

1．名簿に掲載できる項目：※氏名（ふりがなつき），出身校，卒年，※所属先，所属部課名，所属先電話，FAX番号，連絡先住所＝自宅住所または所属先住所，自宅の場合は自宅の電話，FAX番号，メールアドレス（所属先または個人のどちらか一方）

2．名簿に必ず掲載する項目：上記の※印つき項目，氏名，所属（ない場合は掲載しない）

3．名簿掲載を選択できる項目：上記の※印のない項目すべて

4．選択項目のうち掲載を拒否する項目がある場合：選択項目の□欄にチェック（✓）を入れてください．✓印がない項目は掲載承諾いただけたものとします．

5．名簿に掲載されない項目：会員番号，生年月日，興味専門分野，専門部会

6．掲載様式例

氏　名	出身校	卒業年	勤務先	〒	連絡先住所<e-mail>
地質（チシツ）　学（マナブ）	地質大環境	71	地質調査（株）地質部Ⓣ 03-5823-1150 Ⓕ 03-5823-1156	101-0032	東京都千代田区岩本町2-8-15 <main@geososiety.jp>

＜会員名簿の訂正・変更・登録についてのお願い＞

◎誤記・変更・追加などありましたら，楷書ではっきりと，アパート・下宿等は忘れずに書いてください．団地名など省略できる場合は省略形でお願いいたします．会員番号は雑誌の宛名ラベル左下の7桁の数字です．

◎名簿に必ず掲載する項目は※印つきの項目(氏名、所属〔ない場合は掲載しない〕)です．

◎名簿掲載を選択できる項目は※印のない項目全部についてです．

名簿への掲載を拒否する項目がある場合には，選択項目の □ 欄にチェック（✓）を付けてください．

◎基本的には郵便物の受け取り先が名簿に掲載される住所です．受け取り先が勤務先のかたはできるだけ，郵便物が確実に届く範囲（部課名）までご記入願います．受け取り先を変更する場合は，欄外の受取先のいずれかに〇をつけてください．

日本地質学会事務局　御中

FAX：03-5823-1156

E-mail ： main@geosociety.jp

※印の項目(氏名、所属)は掲載必須項目です．**掲載を拒否する選択項目には □ に チェック（✓）をつけて下さい．**

会員番号	（　　年　　月　　日届） **名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更・登録カード**				
ローマ字表記 ※　氏　　名		生年月日	19　　年	月	日生
出身校	最終学歴について掲載を**拒否する場合**には左側の項目**「□ 最終学歴」にチェックを**，在学中のかたは，所属先の身分（学生・院生・研究生等）について**掲載を拒否する場合**には**「□ 所属先の身分」にもチェック**を付けてください．				
□ 最終学歴 □ 所属先の身分	学校　　年　月　卒・在学 大学　　学部　　年　月　卒・在学 大学　　研究科　修士課程 ・博士課程　　年　月　修・在学 大学　　研究生・その他（　　）				
※　**所属先** 所属先部課名まで記入					
□ 所属先部課名	**所属先は郵便物が確実に届く範囲（部課名）までをご記入下さい**（掲載の可否に関わらず）． 所属先部課名について掲載拒否を希望する場合には左側の□にチェックを付けてください．				
□ 所属先住所	〒				
□ 所属先電話・FAX	代表 ・ ダイヤルイン TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－				
□ 自宅住所	〒				
□ 自宅電話・FAX	TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－				
□ E-mail Address	自宅・所属先のどちらかを登録．				

郵便物の受け取り先（いずれかに〇）　**自宅　・　所属先**

＜＜専門部会と興味専門分野について＞＞（該当する項目に〇印を付けて下さい）

◆　**専門部会への登録をお願いします．所属希望の部会を３つまで選択することができます．**

1．地域地質　2．層序　3．堆積地質　4．現行地質過程　5．海洋地質　6．構造地質　7．岩石
8．火山　9．応用地質　10．環境地質　11．情報地質　12．古生物　13．第四紀地質　14．環境変動史

◆　**あなたの興味専門分野を教えてください．３つまで選択することができます．**

1．層位　2．堆積・堆積岩　3．古生物　4．構造地質　5．火山・火山岩　6．深成岩　7．変成岩　8．鉱床地質（金属・非金属）
9．鉱床　10．鉱物　11．燃料地質　12．地熱　13．第四紀　14．環境地質　15．都市地質　16．土木地質　17．土質工学
18．水文地質　19．探査地質　20．土木工学　21．情報地質　22．地震地質　23．海洋地質　24．地球物理　25．地球化学
26．地質年代学　27．地理　28．地学教育　29．考古学　30．その他　40．地球惑星

CALENDAR

2013.6～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2013年

6月　June

○地質学史懇話会
6月23日（日）　13:30～17:00
場所：北とぴあ8階808号室：JR京浜東北線王子駅下車3分
中川智視『小泉八雲と服部一三－富山大学ヘルン文庫の調査から見えてきた意外な関係－』
平林憲次『戦前から現在までの北樺太の石油開発－話題提供・石油地質を中心として－』
問い合わせ：矢島道子<pxi02070@nifty.com>

○石油技術協会平成25年度春季講演会
6月27日（木）～28日（金）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木）
http://www.japt.org/

○日本古生物学会2013年年会
6月28日（金）～30日（日）
場所：熊本大学
http://www.palaeo-soc-japan.jp/Japanese/index.html

7月　July

○第50回アイソトープ・放射線研究発表会
日本地質学会　共催
7月3日（水）～5日（金）
場所：東京大学弥生講堂
http://www.jrias.or.jp/

○GSJ第21回シンポジウム「古地震・古津波から想定する南海トラフの巨大地震」
7月10日（水）
場所：秋葉原ダイビルコンベンションホール
http://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo21/index.html

○国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会
日本地質学会　後援
「IAVCEI2013 Scientific Assembly」
7月20日（土）～24日（水）
場所：鹿児島県鹿児島市
http://www.iavcei2013.com/

8月　August

○第14回地震火山こどもサマースクール in 伊豆半島
日本地質学会　共催
8月3日（土）～8月4日（日）
場所：静岡県下田市「あずさ山の家」

○室戸ジオパークサマースクール2013
来るならきいや南海地震，土佐はうちが守るきね！
日本地質学会　後援
8月8日（木）～9日（金）
http://ss.muroto-geo.jp/

○第6回地殻応力国際シンポジウム
日本地質学会　後援
8月20日（火）～22日（木）
場所：仙台国際センター（宮城県仙台市）
http://www2.kankyo.tohoku.ac.jp/rs2013/

○第28回HKTワークショップと第6回チベット高原に関する国際シンポジウムの合同大会
8月22日（木）～24日（土）
場所：Tübingen University, Germany
http://www.tip.uni-tubingen.de/index.php/en/hkt-istp-2013-tuebingen

9月　September

○第57回粘土科学討論会
日本地質学会ほか　共催
9月4日（水）～6日（金）
場所：高知市文化プラザかるぽーと
http://www.cssj2.org/

○2013年度日本地球化学会年会
日本地質学会　共催
9月11日（水）～13日（金）
場所：筑波大学第一エリア1D1E棟
セッション申込締切；7月17日（水），6月7日（金）
http://www.geochem.jp/index.html

★第4回・第5回津波堆積物ワークショップ
日本地質学会・日本堆積学会　共催
日程：9月14日：第4回ワークショップ
　　9月18日：第5回ワークショップ
場所：仙台（東北大学）

★日本地質学会第120年学術大会（仙台大会）
9月14日（土）～16日（月・祝）
場所：東北大学ほか
講演申込締切：7月2日（火）
事前参加申込締切：8月20日（火）

○第30回歴史地震研究会
9月14日（土）～16日（月・祝）
場所：秋田大学
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

○2013 International Association for Gondwana Research (IAGR) and 10th Gondwana to Asia, in collaboration with IGCP 592.
会議・シンポ：9月30日（月）～10月2日（水）
巡検：10月3日（木）～4日（金）．
発表要旨締切：7月31日
参加登録締切：8月31日
場所：韓国Daejeon，KIGAM
http://iagr2013.kigam.re.kr or
http://www.elsevier.com/locate/gr

11月　November

○ International Biogeoscience Conference 2013
11月1日（金）～4日（月）
場所：名古屋大学
http://www.info.human.nagoya-u.ac.jp/~sugi/Site/Biogeoscience_Conference_2013.html

○第67回日本人類学会大会・総会
11月1日（金）～4日（月・祝）
場所：国立科学博物館筑波研究施設ほか
http://anthropology.jp/activity/annual.html

○第29回ゼオライト研究発表会
日本地質学会　協賛
11月27日（水）～28日（木）
場所：東北大学片平さくらホール
http://www.jaz-online.org/index.html

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください.

入会には正会員1名の紹介が必要です. 近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください. また, 申し込み時には, 初年度の会費を添えてお申し込みください. 会員としての正式登録は, 入会承認後, 初年度会費の入金を確認した上で行い, 雑誌の送付(4月号から)を開始いたします.

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会
会費(※1)年額:正会員 12,000円 (学部学生割引＊5,000円, 院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています.
※2:学部学生割引, 院生割引を希望される方は, 下記の割引申請欄に指導教官の署名, 捺印をもらってください.

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　□正会員 (□学部学生割引 ・ □院生割引)
氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ字表記 family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day 生born on	Sex: □ 男 Male　□ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:
_____学校 High school_____年卒業 Year completed
_____大学 University _____学部 Faculty _____年____月 卒業(見込み)Year completed
修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed
博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　－　)

電話 Phone:　ファックス Fax:
電子メール E-mail:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　－　)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう, ご記入ください.

電話 Phone:　ファックス Fax:
電子メール E-mail:

連絡先 Correspondence:　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度, 会員名簿を発行しています. 氏名・所属先は掲載必須項目です. 下記の項目について**掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**.

□ 最終学歴　□ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「○○大学○○学部」,「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
□ 所属先住所　□所属先電話・FAX番号　□自宅住所　□自宅電話・FAX番号　□e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印
Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき会費の院生割引を申請いたします.

上記本学の学生につき, **□ 学部学生 ・ □ 定収のない院生(研究生)** 〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします.

指導教官　所属:　氏名:　印

専門部会:現在, 下記の13の専門部会があり活動しています. 専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします. 所属希望の部会を3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山
9. 応用地質　10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください. 3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　年　月　日)　＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)　＊送本(　巻　号)

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4〜3月）もしくは一巻内（1〜12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2013前期号）発行！

申込・問い合わせ：一般社団法人 **日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

Ⓒ一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp